

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バレエ&ダンス			
ポリショイ・バレエ2013『ラ・バヤデー』	7,8,9,10,11,12,19,6,	ポリショイ・バレエの二大プリマ、ザハーロワとアレクサンドロワの豪華共演。マイムを極力控え、舞踊で物語がテンポよく展開するグリゴロヴィチ版は“見せ場”の連続。	[出演]スヴェトラナ・ザハーロワ（ニキヤ）ウラディスラフ・ラントラトフ（ソロル）マリーヤ・アレクサンドロワ（ガムザッティ）アンドレイ・シトニコフ（高僧）アレクセイ・ロパレーヴィチ（ラジャ）デニス・メドヴェージェフ（黄金の像）[オリジナル振付]マリウス・プティパ[追加振付]ワフタング・チャブキアーニ、ニコライ・ズブコフスキー、コンスタンティン・セルゲイエフ[振付改訂]ユーリー・グリゴロヴィチ[音楽]ルートヴィヒ・ミンクス[台本]マリウス・プティパ、セルゲイ・クデコフ[台本改訂]ユーリー・グリゴロヴィチ[装置&衣裳]ニコライ・シャロノフ[照明]ミハイル・ソコロフ[指揮]パーヴェル・ソローキン[演奏]ポリショイ劇場管弦楽団[収録]2013年1月ポリショイ劇場（モスクワ）[映像監督]ヴァンサン・パティヨン ■全3幕：約2時間7分
ポリショイ・バレエ2014『マルコ・スパーダ』	14,15,16,17,18,26,13	さすがポリショイ！物語を彩る素晴らしいダンサーの技量に目が釘付け。名匠ピエール・ラコットにより鮮やかに現代に蘇ったオーベールの古典バレエ。	[出演]デイヴィッド・ホールバーグ（マルコ・スパーダ）エフゲーニヤ・オブラストワ（アンジェラ）オルガ・スミルノワ（サンピエトリ）セミョン・チュージン（フェデリッパ公爵）イーゴリ・ツヴィルコ（ペピネリ伯爵）アレクセイ・ロパレーヴィチ（修道士ポロメオ）アンドレイ・シトニコフ（オサリオ侯爵）アナスタシア・スタシケーヴィチ（花嫁）ヴァチェスラフ・ロパーティン（花婿）ユリア・グレベンシュチコワ、オルガ・マルチェンコワ、アンナ・オクネワ、アンナ・チホミロワ（サンピエトリの友人）イワン・アレクセーエフ、アルテミー・ベリャコフ（マルコ・スパーダの友人）ヤン・ゴドフスキー、アナスタシア・グバノワ、ダリア・ホフロワ、アルトゥール・ムクルトチャン、スヴェトラナ・パヴロワ、アレクサンドル・スモリヤニノフ（道化師）アリョーシャ・グラドワ、エリザヴェータ・クルテリョワ、ユリア・ルンキナ、スヴェトラナ・パヴロワ、アンナ・レベツカヤ、アンナ・ヴォロンコワ（使用人）アンナ・アントロポワ、アンナ・レオノワ、ヴィクトリア・リトヴィノワ、マリーヤ・ザルコワ、カリム・アブドゥーリン、エゴール・フロムシン、カリム・エフィーモフ、ドミトリー・エフレモフ（盗賊）ポリショイ・バレエ団[復元振付・装置・衣裳]ピエール・ラコット[音楽]ダニエル・フランソワ=エスプリ・オーベール[オリジナル台本]ウジェーヌ・スクリーブ[オリジナル振付]ジョゼフ・マシリエ[照明]ダミール・イスマギエロフ[指揮]アレクセイ・ボゴラト[演奏]ポリショイ劇場管弦楽団[収録]2014年3月27日&30日ポリショイ劇場（モスクワ）[映像監督]ヴァンサン・パティヨン ■全3幕：約2時間7分
ネザールランド・ダンス・シアター『ウィングス・オブ・ワックス』	9,10,11,13,14,15,18	鬼才振付家イリ・キリアンがイカロスの翼の神話から想を得た1997年初演作品を、オランダの名門コンテンポラリー・ダンス・カンパニーがテレビ用に再演。	[出演]ネザールランド・ダンス・シアターI（ヴィルジニー・マルティナ、オレリー・カイヤ、リディア・バステインドウイ、ヴァレンティーナ・スカーリア、ルーカス・ティムラック、ステファン・ゼロムスキー、パトリック・マリン、バスチャン・ゾルゼット）[コンセプト&振付]イリ・キリアン[音楽]ハインリヒ・イグナツ・フランツ・フォン・ビーバー：無伴奏ヴァイオリンのためのパッサカリヤ、ジョン・ケージ：瞑想への前奏曲、フィリップ・グラス：弦楽四重奏曲第5番～第3楽章、ヨハン・セバスティアン・バッハノドミトリー・シトコヴェツキー編曲：ゴルトベルク変奏曲～第25変奏（弦楽三重奏版）[衣裳]ヨーク・ヴィセル[装置&照明]ミハエル・シモン[収録]2008年10月19日ネザールランド・ダンスシアター・ホール（ハーグ）[映像監督]ハンス・フルシャー ■全1幕：約25分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ネザーランド・ダンス・シアター『カー・メン』	23,24,25,27,28,29,	スラップスティックの動きの向こうに、カルメンの運命が横たわる。鬼オイリ・キリアン振付とNDTのダンサーによる斬新でブラックな映像作品。	[出演]ザビーネ・クプファーベルク（カルメン） ジョコンダ・バルブト（ミカエラ） ダヴィッド・クリューゲル（エスカミリー） カレル・フルスカ（ドン・ホセ） ネザーランド・ダンス・シアター [振付]イリ・キリアン[音楽]ハン・ホットテン（ジョルジュ・ビゼーの歌劇『カルメン』を基に） [衣裳]ステファニー・マリエン [撮影]ヴァルター・ヴァンデン・エンデ [編集]ジェフ・ヘルトグス [監督]ボリス・パヴァル・コーネン [制作]2006年 ■約28分
ウィーン国立バレエ2018『パール・ギュント』	30,	クルーグによるバレエ化によって、北欧の名作がイメージーションの飛翔する舞台に！ 個性豊かな名門・ウィーン国立バレエのダンサーたちがもたらす高揚と余韻	[出演] ヤコブ・フェイフェルリク（パール・ギュント） アリーチェ・フィレンツェ（ソルヴェイグ） イーノ・ペシー（死神） ジョルト・トロク（鹿） フランツィスカ・ヴァルナー＝ホリネク（オーゼ） イオアンナ・アヴラアム（イングリット） ニキータ・フォゴ（緑の髪の娘） イザベラ・ルチア・セヴェリ（ヘルガ） ウラジミール・シシヨフ（アスラック） イゴール・ミロシュ（マズ） セリーヌ・ジャヌー・ヴェーバー（アクトラ） アンドラーシュ・ルカーチ（医者） ウィーン国立バレエ [振付・台本]エドワード・クルーグ[原作]ヘンリック・イブセンの詩劇『パール・ギュント』[音楽]エドヴァルド・グリーグ [装置] マルコ・ヤベルイ[照明]トマシュ・プレムズル [衣裳] レオ・キュラス[指揮]サイモン・ヒューイット[演奏] ウィーン国立歌劇場管弦楽団、滝澤志乃(ピアノ) [収録]2018年 ウィーン国立歌劇場 [映像監督]バラージュ・デルボ ■約1時間54分
ハンブルク・バレエ『転換』	28,29,30,27,	1942年米国生まれ。ダンサーとして英国ロイヤル・バレエ学校に学び、所属したシュトゥットガルト・バレエ団で振付家に転身。フランクフルト・バレエ団芸術監督を経て、1973年より現在まで長きにわたりハンブルク・バレエ団芸術監督を務めるジョン・ノイマイヤーが、30代半ばで創作した初期の貴重映像です。	[出演]リンネ・チャールズ、マリアヌ・クルウゼ、コッリン・スコット、イヴァン・リスカ、マックス・ミディネット、ヴィル・クワッドフリーグ（語り） 他 [振付 & 映像監督]ジョン・ノイマイヤー [美術 & 衣裳]マルコ・アルトゥーロ・マレッツ [音楽]フランツ・ペーター・シューベルト：弦楽五重奏曲八長調D.956, Op.163 [演奏]ブランドイス四重奏団、イェルク・パウマン（チェロ） [制作]1979年 ■字幕 / 約54分
アメリカン・バレエ・シアター『ジゼル』	16,17,20,21,22	イタリアの至宝カルラ・フラッチ全盛期の映像。無邪気なジゼルと錯乱のジゼル、精霊のジゼルを演じ分ける豊かな表情が見どころ。アルブレヒトはデンマークが生んだ最大のスター、エリック・ブルーネ。	[出演]カルラ・フラッチ（ジゼル） エリック・ブルーネ（アルブレヒト） ブルース・マークス（ヒラリオン） トニ・ランダー（ミルタ） エリアノール・ダントウオノ & テッド・キヴィット（ペザント・パ・ド・ドゥ） アメリカン・バレエ・シアター [振付 & 演出]デイヴィッド・ブレア [オリジナル振付]ジェーン・コラリ & ジュール・ペロー [音楽]アドルフ・アダン [装置]ジョルジュ・ワケヴィッチ、B.バレストー [衣裳]P.ホール、J.レムツィ [指揮]ジョン・ランチベリー [演奏]ベルリン・ドイツ・オペラ管弦楽団 [映像収録]1968年10月～11月 ブロンストン・スタジオ（マドリッド） [音声収録]1968年9月 UFAスタジオ（ベルリン） [映像監督]フーゴー・ニーベリング ■全2幕：約1時間32分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ポリショイ・バレエ・イン・ロンドン 1956	21,2 2,23 ,24, 25,2 6,20	西側ではその全貌が知られていなかったモスクワのポリショイ・バレエ団が、1956年10月にロンドンで行った歴史的公演。20世紀の伝説的バレリーナ、ガリーナ・ウラノワの当たり役であるミハイル・フォーキン振付『瀕死の白鳥』とレオニード・ラヴロフスキー版『ジゼル』を見ることができる貴重映像です。	<p>[演目]バレエ『バフチサライの泉』～「ダッタン人の兵士たちの踊り」[振付]ロスティスラフ・ザハーロフ[音楽]ボリス・アサフィエフ[出演]M・ポイソフ、A・クラレフスキー、S・ヤグージン、ポリショイ・バレエ団</p> <p>[演目]バレエ『白鳥の湖』～「スペイン人の踊り」[振付]アレクサンドル・ゴルスキー[音楽]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー[出演]S・ズヴァギーナ、A・ネルセソフ、ヤロスラフ・セフ、G・シトニコフ、ポリショイ・バレエ団</p> <p>[演目]バレエ『春の洪水』* [振付]アサフ・メッセレル[音楽]セルゲイ・ラフマニノフ： 歌曲『春の奔流』Op.14-11[出演]L・ボゴモロフ、S・ヴラソフ、ポリショイ・バレエ団</p> <p>[演目]歌劇『イワン・スサーニン』～「ポロネーズとクラコヴィアク」* [振付]ロスティスラフ・ザハーロフ[音楽]ミハイル・グリンカ[出演]Y・サンゴヴィッチ、S・ズヴァギーナ、M・コルバクチ、V・ベトロフ、アレクサンドル・ラドゥンスキー、ウラジミール・レワシェフ、K・リフテル、ポリショイ・バレエ団</p> <p>[演目]歌劇『ファウスト』～「ワルブルギスの夜」* [振付]レオニード・ラヴロフスキー[音楽]シャルル・フランソワ・グノー[出演]ライサ・ストルチコフ、アレクサンドル・ラバウリ、G・ファルマニヤツ、A・トルシュキン、T・ヴェプロフ、M・ゴットリーブ、Z・コロタエフ、ポリショイ・バレエ団</p> <p>[演目]バレエ『瀕死の白鳥』[振付]ミハイル・フォーキン[音楽]カミーユ・サン＝サーンス： 組曲『動物の謝肉祭』～第13曲「白鳥」[出演]ガリーナ・ウラノワ</p> <p>[演目]バレエ『ジゼル』* [音楽]アドルフ・アダン[振付]レオニード・ラヴロフスキー[オリジナル振付]ジャン・コラリ&ジュール・ペロー、マリウス・プティパ[出演]ガリーナ・ウラノワ（ジゼル）、ニコライ・ファージェチェフ（アルブレヒト）、T・モナホフ、アレクサンドル・ラドゥンスキー、ポリショイ・バレエ団</p> <p>[指揮]ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー、ユーリ・ファイエル（*）[演奏]コヴェント・ガーデン王立歌劇場管弦楽団、ボーンマス交響楽団[収録]1956年10月デヴィス劇場（クロイドン）/『ジゼル』[収録]1956年10月25日コヴェント・ガーデン王立歌劇場（ロンドン）</p>
オペラ			
バルセロナのフローレス『チェネレントラ』	5,	ロッシェニ25歳の作品で、『セビリアの理髪師』の翌年に作曲された『チェネレントラ』は、素晴らしいアリアと重唱、早口ソングやドタバタ喜劇も満載。原作は有名なペローの童話ですが、オペラでは継母が継父になり、ヒロインを宮殿に導くのは魔法使いではなく王子の指南役の哲学者アリドーロ。キーグズがガラスの靴ではなく腕輪というところもポイントです。	<p>[出演]フアン・ディエゴ・フローレス（ドン・ラミロ/テノール） ジョイス・デイドナート（アンジェリーナ《チネレントラ》/メゾ・ソプラノ） ブルーノ・デ・シモーネ（ドン・マニフィコ/バス・バリトン） ダビド・メネンデス（ダンディーニ/バリトン） クリスティーナ・オブレゴン（クロリンダ/ソプラノ） イトクサロ・メントクサカ（ティスベ/メゾ・ソプラノ） シモン・オルフィラ（アリドーロ/バス） アンデル・アラボラーザ、ホフレ・カラベン、ハビエル・エストラダ、ブランカ・フェレル、ジェンマ・ガルシア、フリア・M・コシュ、エクトル・マンサナレス、アンヘル・ソータス（ねずみ）</p> <p>[演目]ジョアキーノ・ロッシェニ： 2幕のドラマ・ジョコーゾ『チェネレントラ、あるいはまごころの勝利』（アルベルト・ゼッダ監修によるロッシェニ財団のクリティカル・エディション） [台本]ヤコポ・フェルレッティ[原作]シャルル・ペローの童話『サンドリオン（シンデレラ）』、ニコロ・イズアール作曲『サンドリオン』のためのシャルル＝ギョーム・エティエンヌによる台本、ステファノ・パヴェージ作曲『アガティーナ、報いられた美德』のためのフランチェスコ・フィオリニによる台本[演出]ホアン・フロント[装置&衣裳]ホアン・ギーエン[照明]アルベルト・ファウラ[振付]セビ・ドルカ[指揮]パトリック・サマーズ[演奏]リセウ大劇場交響楽団及び同合唱団[合唱指揮]ホセ・ルイス・バツソ[収録]2008年1月リセウ大劇場（バルセロナ）[映像監督]シャビ・ボーベ</p> <p>■字幕/全2幕：約2時間48分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ウィーン国立歌劇場2008『運命の力』	15,16,17,20,14	<p>当代随一のドリーム・キャストが結集！2008年にウィーン国立歌劇場で新制作され、そのクオリティの高さで大喝采を浴びた公演。逃れられない運命の連鎖を演じるのはスウェーデン出身でパイロイトをはじめ世界で活躍するドラマティック・ソプラノ、ニーナ・シュテンメ。パヴァロッティの後継者と言われながら2011年9月5日に急逝したテノール、サルヴァトーレ・リチートラ、そして世界の主要歌劇場で国際的に活躍する名バリトン、カルロス・アルバレス。愛と復讐に翻弄される兄、妹、その恋人のドラマティックな人間ドラマを重厚な音楽で支えるのは、この作品を得意とする巨匠ズービン・メータ。</p>	<p>[出演]ニーナ・シュテンメ (レオノーラ/ソプラノ) サルヴァトーレ・リチートラ (ドン・アルヴァーロ/テノール) カルロス・アルバレス (ドン・カルロ/バリトン) ナディア・クラステヴァ (プレツィオジッラ/メゾ・ソプラノ) アラスデア・マイルズ (カトラーヴァ侯爵&グアルディアーノ神父/バス) ティツィアーノ・ブラッチ (フラ・メリトネ/バリトン) エリザベータ・マリン (クーラ/メゾ・ソプラノ) ダン・パウロ・ドゥミレスク (市長/バス) ミハエル・ロイダー (マストロ・トラブコ/テノール) クレメンス・ウンターライナー (軍医/テノール) ウィーン国立歌劇場バレエ&ウィーン・フォルクスオーパー・バレエ、ウィーン国立歌劇場バレエ学校の生徒たち</p> <p>[演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：4幕のメロドラマ『運命の力』[台本]フランチェスコ・マリア・ピアヴェ (初版) アントニオ・ギスランツォーニ (改訂版) [原作]リバス公アンヘル・デ・サーベドラの戯曲『ドン・アルバーロ、または運命の力』及びフリードリヒ・フォン・シラーの戯曲『ヴァレンシュタインの陣営』(アンドレア・マッフェイ伊語訳) からの一場面</p> <p>[演出]デイヴィッド・パウントニー [装置&衣裳]リチャード・ハドソン [照明]ファブリス・ケブール [振付]ベアーテ・フォラック</p> <p>[指揮]ズービン・メータ [演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団 & 同合唱団、ウィーン国立歌劇場舞台上オーケストラ [合唱指揮]トーマス・ラング</p>
ロッシーニ・オペラ・フェスティバル2012『マティルデ・ディ・シャブラン』	12,18	<p>ロッシーニの32作目の歌劇『マティルデ・ディ・シャブラン』は、1821年ローマ初演で名ヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニが代役で指揮。第2幕のホルンソロも彼がヴァイオラで代奏したことなどで知られるオペラです。アリアが4曲だけ、しかも技術的には困難を極めるという特殊事情もあって、記録では1892年を最後に、1996年ロッシーニ・オペラ・フェスティバルまで一度も上演されたことはありませんでした。</p> <p>1996年のフェスティバルでは、ローマ初演から数ヵ月後に初演された『マティルデ・ディ・シャブラン』ナポリ稿 (ユルゲン・ゼルク批判校訂版) が復活上演。23歳のファン・ディエゴ・フローレスが代役で大成</p>	<p>[演目]ジョアキーノ・ロッシーニ：2幕のメロドラマ『マティルデ・ディ・シャブラン、または美女と鉄の心』(1821年ナポリ初演版/ユルゲン・ゼルク校訂によるクリティカル・エディション) [台本]ヤーコボ・フェッレット [原作]エティエンヌ＝ニコラ・メユールのオペラ『ウフロジューヌ、または矯正された暴君』のフランソワ＝ブノワ・オフマンの台本及びジャック＝マリ・ブテ・ド・モンヴェルの散文劇『マティルド』他 [演出]マリオ・マルトーネ [装置]セルジオ・トラモンティ [衣裳]ウルスラ・パツァーク [照明]パスクワレ・マーリ [指揮]ミケーレ・マリオッティ [演奏]ボローニャ歌劇場管弦楽団及び同合唱団 [合唱指揮]ロレンツォ・フラティエーニ [収録]2012年8月アドリアティック・アリーナ (ペーザロ)</p> <p>「ロッシーニ・オペラ・フェスティバル2012」[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ</p> <p>■字幕/全2幕：約3時間40分</p>
シャイアの『ラ・ボエーム』	22,23,24,25,27,21,	<p>ミラノ・スカラ座次期音楽監督に決定したイタリアの指揮者リッカルド・シャイアが最高のオペラ指揮者であることがわかる番組。柔軟でしなやかな音楽運びと振幅の大きなダイナミクス、そしてドラマティックなオーケストラ。これぞイタリア・オペラ！といえる最高の『ラ・ボエーム』映像。ラストは誰もが涙することだろう。</p>	<p>[出演]ガル・ジェイムズ (ミミ/ソプラノ) アキレス・マチャド (ロドルフォ/テノール) マッシモ・カヴァッレッティ (マルチェッロ/バリトン) カルメン・ロメウ (ムゼッタ/メゾ・ソプラノ) ジャンルカ・ブラット (コッリーネ/バス) マッティア・オリヴィエーリ (ショナル/バリトン) マッテオ・ペイローネ (ベノワ/バス) アンドレア・ズナルスキ (アルチンドーロ/バス) パブロ・ガルシア・ロベス (パルミニョール/テノール) ポロ・ギナー (関税官/バス)</p> <p>[演目]ジャコモ・プッチーニ：4幕のオペラ『ラ・ボエーム』[台本]ジュゼッペ・ジャコーザ&ルイーダ・イリカ [原作]アンリ・ミュルジェールの小説『ボヘミアンの生活風景』[演出・装置・衣裳・照明]ダヴィデ・リヴェルモレ [指揮]リッカルド・シャイア [演奏]バレンシア州立管弦楽団、バレンシア自治州合唱団、他 [合唱指揮]フランセスク・ペラレス、ルイス・ガッリド、他 [収録]2012年12月12日 & 15日ソフィア王妃芸術館 (バレンシア) [映像監督]ミハエル・ベイヤー</p> <p>■字幕/全4幕：約1時間56分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ミラノ・スカラ座2016『二人のフォスカリ』	8,9,10,11,13,19,7	<p>実在のヴェネツィア共和国総督フランチェスコ・フォスカリが、政敵の罠によって無実の罪で投獄された息子ヤコポへの愛と、総督としての立場の狭間で苦悩します。ヤコポの妻ルクレツィアの懇願も虚しく、ヤコポは流刑地へ赴く途中で亡くなり、老フォスカリは地位を奪われて憤死します。近年とみに人気と評価が高まっているヴェルディ初期作品。</p>	<p>[出演]ブラシド・ドミンゴ（フランチェスコ・フォスカリ／バリトン）フランチェスコ・メーリ（ヤコポ・フォスカリ／テノール）アンナ・ピロツィ（ルクレツィア／ソプラノ）アンドレア・コンチェッティ（ヤコポ・ロレダーノ／バス）エドアルド・ミッレッティ（バルバリゴ／テノール）キアーラ・ポリドーリ（ピザーナ／ソプラノ）アゼル・レザ＝ザデ（十人委員会の委員／テノール）ティル・フォン・オルロフスキー（総督の従僕／バス）</p> <p>[演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕のトラジェディア・リリカ『二人のフォスカリ』[台本]フランチェスコ・マリア・ピアヴェ</p> <p>[原作]バイロンの戯曲『二人のフォスカリ』</p> <p>[演出&装置]アルヴィス・ヘルマニス[衣裳]クリスティーヌ・ユリアーネ[照明]グレブ・フィルシュティンスキー[振付]アラ・シガロヴァ[映像]イネタ・シブノヴァ[ドラマトルギー]オリヴィエ・レクサ[指揮]ミケーレ・マリオッティ[演奏]ミラノ・スカラ座管弦楽団及び同合唱団[収録]2016年2月25日ミラノ・スカラ座</p> <p>■字幕／全3幕：約2時間11分</p>
ブレゲンツ音楽祭2015『ホフマン物語』	27,28,29,30,25	<p>詩人ホフマンと彼が恋した3人のヒロイン（人形オランピア、歌姫アントニア、娼婦ジュリエッタ）、3人の悪魔、そして彼を見守るミューズが織りなす幻想的な物語と、有名な「ホフマンの舟歌」や「クラインザックの物語」をはじめとする豪華絢爛な音楽。オペレッタ作家として「シャンゼリゼのモーツァルト」と讃えられた19世紀フランスの作曲家オッフエンバックの最後の作品で、その死により未完に終わったオペラが『ホフマン物語』です。</p>	<p>[出演]ダニエル・ヨハンソン（ホフマン／テノール）ミハエル・フォレ（顧問官リンドルフ、酒場の主人ルーテル、コッペリウス、ミラク博士、ダベルトゥット／バリトン）ケシュティン・アヴェモ（オランピア、ジュリエッタ／ソプラノ）マンディ・フレドリヒ（アントニア、ジュリエッタ／ソプラノ）ラヘル・フレンケル（ミューズ、ニクラウス、亡霊／メゾ・ソプラノ）クリストフ・モルターニュ（アンドレ、コシュニエ、フランツ／テノール）ベンクト・オラ・モルニー（スパランツァーニ／テノール）ケティル・フガース（クレスベル／バス・バリトン）オエル・トロアデック（ナタナエル／テノール）ヨーゼフ・コヴァチッチ（ヘルマン／バリトン）ベトル・スヴォボーダ（ヴィルヘルム／バリトン）ペレ・カールソン（ステラ／黙役）</p> <p>[演目]ジャック・オッフエンバック：5幕の幻想的オペラ『ホフマン物語』（マイケル・ケイ&ジャン＝クリストフ・ケック版）のブレゲンツ音楽祭バージョン[脚色]シュテファン・ヘアハイム、ヨハネス・デプス、オラフ・A・シュミット[台本]ジュール・バルビエ[原作]エルンスト・テオドル・アマデウス・ホフマンの小説『砂男』[顧問官クレスベル]『失われた鏡像の物語』に基づくジュール・バルビエとミシェル・カレの戯曲『ホフマン物語』[演出]シュテファン・ヘアハイム[装置]クリストフ・ヘッツァー[衣裳]エステル・ピアラス[照明]フェニックス（アンドレアス・ホーファー）[ビデオデザイナー]フェットフィルム、モンメ・ヒンリクス&トルゲ・メラー[ドラマトルギー]オラフ・A・シュミット[指揮]ヨハネス・デプス[演奏]ウィーン交響楽団、ブラハ・フィルハーモニー合唱団[合唱指揮]ルカーシュ・ヴァシレク</p> <p>[収録]2015年7月23日ブレゲンツ祝祭劇場「第70回ブレゲンツ音楽祭」[映像監督]フェリックス・ブライザハ</p> <p>■字幕／全5幕：3時間5分（番組尺）</p>
バーンスタインのワーグナー『トリスタンとイゾルデ』第1幕	6,7,8,9,10,19,4	<p>バーンスタイン生誕100年を機に、あの伝説の名演がついに！1981年に一幕ずつ3回に分けて入念に上演された渾身のワーグナー『トリスタンとイゾルデ』、その第1幕。</p>	<p>[出演]ペーター・ホフマン（トリスタン／テノール）ヒルデガルト・ベーレンス（イゾルデ／ソプラノ）イヴォンヌ・ミントン（ブランゲーネ／メゾ・ソプラノ）ベルント・ヴァイクル（クルヴェナール／バリトン）トマス・モーザー（水夫／テノール）</p> <p>[演目]リチャルト・ワーグナー：3幕の楽劇『トリスタンとイゾルデ』第1幕（演奏会形式）[台本]リチャルト・ワーグナー[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]バイエルン放送交響楽団及び同男声合唱団[合唱指揮]ハインツ・メンデ[装置&衣裳]ゲルト・クラウス[収録]1981年1月13日ヘラクレスザール（ミュンヘン）[映像監督]カール・ハインツ・フンドルフ</p> <p>■字幕／約1時間45分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインのワーグナー『トリスタンとイゾルデ』第2幕	6,7,8,9,10,19,4	バーンスタイン生誕100年を機に、あの伝説の名演がついに！1981年に一幕ずつ3回に分けて入念に上演された渾身のワーグナー『トリスタンとイゾルデ』、その第2幕。	[出演]ペーター・ホフマン（トリスタン／テノール）ヒルデガルト・ベーレンス（イゾルデ／ソプラノ）イヴォンヌ・ミントン（ブランゲーネ／メゾ・ソプラノ）ベルント・ヴァイクル（クルヴェナール／バリトン）ハンス・ゾーティン（マルケ王／バス）ヘリベルト・シュタインバッハ（メロート／テノール） [演目]リヒャルト・ワーグナー：3幕の楽劇『トリスタンとイゾルデ』第2幕（演奏会形式）[台本]リヒャルト・ワーグナー[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]バイエルン放送交響楽団[装置&衣裳]ゲルト・クラウス[収録]1981年4月27日ヘラクレスザール（ミュンヘン）[映像監督]カールハインツ・フンドルフ ■字幕／約1時間35分
バーンスタインのワーグナー『トリスタンとイゾルデ』第3幕	6,7,8,9,10,19,4	バーンスタイン生誕100年を機に、あの伝説の名演がついに！1981年に一幕ずつ3回に分けて入念に上演された渾身のワーグナー『トリスタンとイゾルデ』、その第3幕。	[出演]ペーター・ホフマン（トリスタン／テノール）ヒルデガルト・ベーレンス（イゾルデ／ソプラノ）イヴォンヌ・ミントン（ブランゲーネ／メゾ・ソプラノ）ベルント・ヴァイクル（クルヴェナール／バリトン）ハンス・ゾーティン（マルケ王／バス）ヘリベルト・シュタインバッハ（メロート／テノール）ハインツ・ツェドニク（牧童／テノール）ライムント・グルムバッハ（舵手／バリトン） [演目]リヒャルト・ワーグナー：3幕の楽劇『トリスタンとイゾルデ』第3幕（演奏会形式）[台本]リヒャルト・ワーグナー[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]バイエルン放送交響楽団、マリリーズ・シュブバッハ（イングリッシュホルン）チャンドラー・ゲッティング（ホルツトロンペーテ）[装置&衣裳]ゲルト・クラウス[収録]1981年11月10日ヘラクレスザール（ミュンヘン）[映像監督]カールハインツ・フンドルフ ■字幕／約1時間35分
トリノ王立歌劇場2018『トゥーランドット』	1,2,3,4,6,12	補筆部分を排除し、ブッチーニの死によって中断されたままの未完版。ノセダのトリノ王立歌劇場音楽監督として最後のフルステージ。鬼オステファノ・ボーダ演出の、白と黒で統一された抽象性の高い舞台も見どころ。	[出演]レベッカ・ロカール（トゥーランドット／ソプラノ）ホルヘ・デ・レオン（カラフ／テノール）エリカ・グリマルディ（リュウ／ソプラノ）シム・インスン（ティムール／バス）アントネッロ・チェロン（皇帝アルトゥム／テノール）マルコ・フィリッポ・ロマーノ（ピン／バリトン）ルカ・カザリン（パン／テノール）ミケルディ・アトクサランダバーソ（ボン／テノール）ロベルト・アッボンダンツァ（役人／バリトン）ジョシュア・サンダース（ベルシャの王子／テノール）サブリナ・アメ（第1の小間使い／ソプラノ）マヌエラ・ジャコモニ（第2の小間使い／ソプラノ） [演目]ジャコモ・ブッチーニ：3幕4場のドラマ・リーリコ『トゥーランドット』（オリジナルの未完バージョン）[台本]ジュゼッペ・アダーミ&レナート・シモーニ[原作]カルロ・ゴツツィの御伽噺風戯曲『トゥーランドット』[演出・装置・衣裳・振付・照明]ステファノ・ボーダ[指揮]ジャンドレア・ノセダ[演奏]トリノ王立歌劇場管弦楽団及び同合唱団、同児童合唱団、トリノ・ジュゼッペ・ヴェルディ音楽院児童合唱団[合唱指揮]クラウディオ・フェノグリオ[収録]2018年1月18日&20日トリノ王立歌劇場[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全3幕：約1時間56分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
フローリオのヘンデル『アチ、ガラテアとポリフェーモ』	11,26	若き日のヘンデルの貴重な傑作音楽劇。3人の歌手とマイム役者がシンクロして、登場人物の感情を多層的に表現する、ときに刺激的な演出に注目！！	<p>[出演]ルース・ロジク（アチ/ソプラノ） サラ・ミンガルド（ガラテア/メゾ・ソプラノ） アントニオ・アベテ（ポリフェーモ/バス） クリスティーナ・バンケッティ（アチ/マイム） ルイーザ・バルディネッティ（ガラテア/マイム） サックス・ニコシア（ポリフェーモ/マイム）</p> <p>[演目]ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：3声のセレナータ『アチ、ガラテアとポリフェーモ』HWV.72[台本]ニコラ・ジュヴェオ[原作]古代ローマの詩人プープリウス・オウィディウス・ナーソー『変身物語』[演出&装置]ダヴィデ・リヴェルモレ[衣裳]ジュージ・ジュスティエーノ[照明]アンドレア・アンフォッシ[ビデオ映像]マルコ・ファントツツィ[指揮]アントニオ・フローリオ[演奏]カッペッラ・デッラ・ピエタ・デ・トゥルキーニ[収録]2009年6月18日&19日カリニャーノ劇場（トリノ） [映像監督]マッテオ・リッケッティ</p> <p>■字幕/全2幕：約1時間38分</p>
クリスティのヘンデル『テオドーラ』	1,2,3,4,12	ヘンデル自身が誇りを持って傑作と自認した名曲。古楽界の王様ウィリアム・クリスティが、充実のキャストと手兵レザール・フロリサンを率いて、満を持しての舞舞台上演！	<p>[出演]キャサリン・ワトソン（テオドーラ/ソプラノ） フィリップ・ジャルスキー（ディディムス/カウンターテナー） ステファニー・ドゥストラック（イレーネ/メゾ・ソプラノ） クレシミール・スパイサー（セプティミウス/テノール） キャラム・ソープ（ヴァレンス/バス） ショーン・クレイトン（使者/テノール）</p> <p>[演目]ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル：3部のオラトリオ『テオドーラ』HWV.68[台本]トマス・モレル[原作]ロバート・ポイルの小説『テオドーラとディディムスの殉教』[演出]スティーブン・ラングリッジ[振付]フィリップ・シロドー[装置&衣裳]アリソン・チッティ[照明]ファブリス・ケプーブル[指揮]ウィリアム・クリスティ[演奏]レザール・フロリサン（合唱&管弦楽） [収録]2015年10月13日&16日シャゼリゼ劇場（パリ） [映像監督]オリヴィエ・シモネ</p> <p>■字幕/全3部：約3時間5分</p>
ウィーン国立歌劇場2019『トスカ』	29,30,28	なんと600回以上も繰り返し上演され続けるウィーン国立歌劇場を代表する人気プロダクション。奇をてらわないオーソドックスな演出とスター歌手を心ゆくまで堪能。	<p>[出演]カーリーネ・ババジャン（フロリア・トスカ/ソプラノ） ピョートル・ベチャワ（マリオ・カヴァラドッシ/テノール） カルロス・アルバレス（スカルピア男爵/バリトン） ソリン・コリバン（チェーザレ・アンジェロッティ/バス） アレクサンドル・モイシウク（堂守/バス） ヴォルフラム・イゴール・デルントル（スポレッタ/テノール） ハンス・ペーター・カンメラ（シャルローネ/バス・バリトン） アイク・マルティロシアン（看守/バス） マリアム・タホン（牧童/オペラ学校の生徒）</p> <p>[演目]ジャコモ・プッチーニ：3幕のメロドラマ『トスカ』[台本]ジュゼッペ・ジャコーザ&ルイーダ・イツリカ[原作]ヴィクトリアン・サルドゥーの戯曲『トスカ』[演出]マルガレータ・ヴァルマン[装置&衣裳]ニコラ・ブノワ[指揮]マルコ・アルミアート[演奏]ウィーン国立歌劇場管弦楽団及び同合唱団、同舞台オーケストラ、ウィーン国立歌劇場オペラ学校の生徒たち[合唱指揮]マルティン・シェベスタ[収録]2019年6月23日ウィーン国立歌劇場</p> <p>■字幕/全3幕：2時間30分（番組枠）</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
大野和士の『炎の天使』2018	5,	悪霊に取り憑かれた美しい女を救えるのか！？大野和士が指揮した2018年エクサン＝プロヴァンス音楽祭の注目公演。これが大野の「宿命のオペラ」だ。	<p>[演出] セルゲイ・プロコフィエフ：歌劇『炎の天使』（全5幕7場）</p> <p>[指揮] 大野和士</p> <p>[演出] マリウス・トレリンスキ</p> <p>[舞台] ボリス・クドリツカ [衣裳] ガスパール・グラールナー [照明] フェリーチェ・ロース [映像] バルテク・マチアス</p> <p>[振付] トマシュ・ウイゴダ</p> <p>[出演] アウシュリネ・ストウンディーテ（レナータ／ソプラノ）スコット・ヘンドリクス（ルブレヒト／バリトン）アグニエシュカ・レーリス（占い師、幻影／メゾ・ソプラノ）アンドレイ・ポポフ（メフィストフェレス、アグリッパ・フォン・ネッテスハイム／テノール）クシシュトフ・パチク（ファウスト、アンリ（ハインリヒ）伯爵、異端審問官／バス）パヴロ・トルストイ（ヤコブ・グロック、医者／テノール）ルーカシュ・ゴリンスキ（マトフェイ・ヴァスマン、ホテルの主人、第二のヤコブ・グロック、使用人／バリトン）ベルナデッタ・グラビアス（ホテルの女主人／メゾ・ソプラノ）ボジェナ・ブイニツカ（修道女1／ソプラノ）マリア・スタシアク（修道女2／ソプラノ）</p> <p>[管弦楽] バリ管弦楽団 [合唱] ワルシャワ・オペラ合唱団</p> <p>[収録] 2018年7月15日、エクサン＝プロヴァンス、プロヴァンス大劇場（エクサン＝プロヴァンス音楽祭、ライブ）</p> <p>[映像監督] フィリップ・ベジア</p> <p>■字幕／2時間15分（番組枠）</p>
オランダ国立歌劇場2018『ホフマン物語』	18,20,21,22,23,24,25	21世紀の新校訂版による上演。鬼オトビマス・クラッツァーの攻めた演出と相まって、これまで見たことのない、新しい『ホフマン物語』が誕生！	<p>[出演]</p> <p>ニーナ・ミネイジアン（オリンピア／ソプラノ）エルモネラ・ヤホ（アントニア／ソプラノ）クリスティン・ライス（ジュリエッタ／ソプラノ）アイリーン・ロバーツ（ミューズ／メゾ・ソプラノ）ジョン・オズボーン（ホフマン／テノール）エヴァ・クローン（アントニアの母／メゾ・ソプラノ）アーウィン・シュロット（リンドルフ、コッペリウス、ミラクル博士、ダベルトゥット／バリトン）ロドルフ・ブリアン（スパンツァーニ／テノール）ポール・ゲイ（ルーテル、クレスベル／バス）フランソワ・リス（シュレーミル／バス）サニーボーイ・ドラドラ（アンドレ、コシエニユ、フランツ、ピティキナッチョ／テノール）マーク・オンブリー（ナタナエル／テノール）フレデリク・ベルクマン（ヘルマン／バス）アレクサンデル・デ・ヨン（ヴィルヘルム／バス）ペーター・アリンク（悪党のボス／バリトン）</p> <p>[演出] トビマス・クラッツァー [舞台装置・衣裳] ライナー・セルマイヤー [照明] ヘルント・ブルクラベク [指揮] カルロ・リッツィ</p> <p>[管弦楽] ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団 [合唱] オランダ国立歌劇場合唱団</p> <p>[演出] ジャック・オフエンバック：歌劇『ホフマン物語』全5幕</p> <p>[収録] 2018年6月 オランダ国立歌劇場</p> <p>[映像監督] ミシェル・フェルメイレン</p> <p>■字幕／2時間55分（番組枠）</p>
バイロイト音楽祭1983『トリスタンとイゾルデ』	13,14,15,16,17,18,26,11,	バイロイト音楽祭における『トリスタンとイゾルデ』上演史上、今なお語り継がれる名プロダクション。第3幕全てがトリスタンの幻覚であったという衝撃のラストが賛否両論を巻き起こした、フランスの鬼オジャン＝ピエール・ポネルによる伝説の演出です。	<p>[出演] ルネ・コロ（トリスタン／テノール）ヨハンナ・マイアー（イゾルデ／ソプラノ）ヘルマン・ベヒト（クルヴェナール／バリトン）ハンナ・シュヴァルツ（ブランゲーネ／メゾ・ソプラノ）マッティ・サルミネン（マルケ王／バス）ロベルト・シュンク（メロート&若い水夫の声／テノール）ヘルムート・バンブフ（牧童／テノール）マルティン・エーゲル（舵手／バリトン）</p> <p>[演出] リヒャルト・ワーグナー：3幕の楽劇『トリスタンとイゾルデ』[台本] リヒャルト・ワーグナー [演出・装置・衣裳・照明・映像監督] ジャン＝ピエール・ポネル [指揮] ダニエル・バレンボイム [演奏] バイロイト祝祭劇場管弦楽団及び同合唱団 [合唱指揮] ノルベルト・バラツチュ [収録] 1983年10月バイロイト祝祭劇場（バイロイト） [映像監督] ブライアン・ラージ</p> <p>■字幕／全3幕：約4時間8分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
コンサート			
グリゴリー・ソコロフ「トリノ・リサイタル2017」	26,27,28,29,30	現代最高、幻のピアニストの貴重なライブ！ 結晶化したとびきり美しいタッチが、深遠広大な宇宙を創造する	<p>[演奏] グレゴリー・ソコロフ (ピアノ)</p> <p>[演目]</p> <p>ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ピアノ・ソナタ第15番 八長調 K.545、幻想曲 八短調 K.475、ピアノ・ソナタ第14番 八短調 K.457</p> <p>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第27番 ホ短調 Op.90、ピアノ・ソナタ第32番 八短調 Op.111</p> <p>[アンコール]</p> <p>フランツ・シューベルト：「楽興の時」D780から第1番八長調</p> <p>フレデリック・ショパン：ノクターン 口長調 Op.32-1、変イ長調 Op.32-2</p> <p>ジャン＝フィリップ・ラモー：『クラヴサン・コンセール』から「軽はずみなおしゃべり」ロベルト・シューマン：アラベスク 八長調 Op.18</p> <p>クロード・ドビュッシー：前奏曲集第2巻から第10曲「カノープ」</p> <p>[収録] 2017年5月31日 トリノ、リンゴット・コングレス・センター</p> <p>[映像監督] ナディア・ノヴィコヴァ</p> <p>■ 2時間25分 (番組枠)</p>
シャイー「ミラノのためのコンサート2019」 in ドゥオーモ広場	24,25,27,28,29,30,23	ミラノのドゥオーモ広場に40,000人の観客を集める恒例の野外コンサート。2019年は没後40年を迎えるニーノ・ロータをトリビュート。映画『道』のバレエ組曲は必見。	<p>[演目]アントニン・ドヴォルザーク：交響曲第9番ホ短調Op.95,B.178『新世界より』、ニーノ・ロータ：バレエ組曲『道』（第1曲「田舎の結婚『ザンパノの到着』」第2曲「3人の演奏者と張り綱の上の『マット』」第3曲「サーカス」（ザンパノの音楽－ジャグラー－『マット』のヴァイオリン）第4曲「ザンパノの怒り」第5曲「ザンパノ、『マット』を殺す－ジェルソミーナの苦痛」第6曲「最後の雪の場面『さらば、ジェルソミーナ』」第7曲「ザンパノの孤独と涙」）</p> <p>／映画『オーケストラ・リハーサル』～「嘲笑」「ギャロップ」、アルトゥーロ・マルケス：ダンソン第2番[指揮]リッカルド・シャイー[演奏]スカラ・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2019年6月9日ドゥオーモ広場（ミラノ）「ミラノのためのコンサート2019」[映像監督]パトリツィア・カルミネ</p> <p>■ 1時間40分 (番組枠)</p>
ティーレマン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第1番』	1,2,3,6,7	21世紀初となるウィーン・フィルのベートーヴェン交響曲全集映像。作曲家29歳の作品で、ハイドンやモーツァルトなどの影響から脱却を試みていた時期の意欲作。	<p>[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第1番八長調Op.21[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]2008年12月ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ブライアン・ラージ</p> <p>■ 約34分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ヤルヴィのベートーヴェン『交響曲第1番』	25,27,28,29,30,24,	<p>2009年ベートーヴェン音楽祭で話題を集めたヤルヴィとドイツ・カンマーフィルのベートーヴェン交響曲全曲演奏会より、作曲家が29歳頃の第1番の鮮烈な演奏。</p> <p>2009年に第11回を迎えたボンの「ベートーヴェン音楽祭」で最も話題を集めた、パーヴォ・ヤルヴィとドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団によるベートーヴェン交響曲全曲演奏会より、9月9日ベートーヴェンハレで行われた交響曲第1番。</p> <p>交響曲第1番はベートーヴェン29歳頃の作品で、ハイドンやモーツァルトなどの影響からの脱却を試みていた時期の意欲作。</p> <p>古典に新たな光を当てたヤルヴィとドイツ・カンマーフィルの鮮烈さ、その興奮と躍動は映像だからこそよくわかる。ヤルヴィを見ずして現代のベートーヴェン演奏は語れない。</p>	<p>[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第1番 長調 Op.21 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ [演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録]2009年9月9日ベートーヴェンハレ（ボン）「ベートーヴェンフェスト・ボン」 [映像監督]クリスティアン・クルト・ワイズ</p> <p>■約28分</p>
ティーレマン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第4番』	15,16,17,20,21	21世紀初となるウィーン・フィルのベートーヴェン交響曲全集映像。	<p>[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第4番 変ロ長調 Op.60 [指揮]クリスティアン・ティーレマン [演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]2009年3月 ムジークフェラインザール（ウィーン） [映像監督]アグネス・メス</p> <p>■約44分</p>
ティーレマン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：田園』	8,9,10,13,14	21世紀初となるウィーン・フィルのベートーヴェン交響曲全集映像。	<p>[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第6番 長調 Op.68『田園』 [指揮]クリスティアン・ティーレマン [演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]2010年4月 ムジークフェラインザール（ウィーン） [映像監督]カリーナ・フィビッヒ</p> <p>■約52分</p>
ティーレマン「ワイマールのリスト生誕200年コンサート」	30,	リスト生誕200年にあたる2011年10月22日にドイツ・ワイマールで行われた生誕記念コンサート。	<p>[演目]リヒャルト・ワーグナー：歌劇『タンホイザー』序曲、フランツ・リスト：ピアノ協奏曲第2番 長調 S.125 / 死の舞踏 S.126 / コンソレーション S.172 ~ 第3番 変ニ長調 / 交響詩第3番『前奏曲』 S.97</p> <p>[指揮]クリスティアン・ティーレマン [演奏]フランツ・リスト・プロジェクト・オーケストラ、コンスタンティン・シチェルバコフ（ピアノ）</p> <p>[収録]2011年10月22日ワイマール・ハレ</p> <p>[映像監督]ティロ・クラウス</p> <p>■約1時間25分</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ダウスゴー & デンマーク国立響『ニールセン：広がりの交響曲』	6,7,8,10,18,26,	デンマーク国立交響楽団のプロジェクト「交響曲の夏」より、オーケストラ設立当初から大切にしてきたレパートリー、デンマーク出身の作曲家ニールセンの交響曲第3番。第2楽章のヴォカリーズは必見。	[演目]カール・ニールセン：交響曲3番ニ短調Op.27『広がりの交響曲』[指揮]トーマス・ダウスゴー[演奏]デンマーク国立交響楽団、イーナ・クリングレボト（ソプラノ）エアレン・ティアミ（バリトン）[収録]2009年6月11日DRコンサートホール（コペンハーゲン）「交響曲の夏」[映像監督]アルネ・ラスムッセン ■約40分
ティーレマンの『ミサ・ソレムニス』	1,2,3,5,	ベートーヴェンの自筆譜に「願わくば心より出で、心へと伝わらんことを」と記され、平和を願う作品として知られる『ミサ・ソレムニス（荘厳ミサ曲）』。	[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ミサ・ソレムニス 二長調Op.123 [指揮]クリスティアン・ティーレマン [演奏]シュターツカペレ・ドレスデン及び同合唱団、クラシミア・ストヤノヴァ（ソプラノ）エリーナ・ガランチャ（メゾ・ソプラノ）ミハエル・シャーデ（テナー）フランツ・ヨゼフ・ゼーリヒ（バリトン）マティアス・ヴォロク（ヴァイオリン・ソロ） [合唱監督]パブロ・アサンテ [収録]2010年2月13日&14日ゼンパーオーバー（ドレスデン） [映像監督]ミハエル・ハイヤー ■字幕／約1時間29分
ヤンソンス&ウィーン・フィル「ザルツブルク音楽祭2012」	1,2,3,4,12	2012年ウィーン・フィル・ニューイヤー・コンサートが記憶に新しいマリス・ヤンソンスとウィーン・フィル。	[演目]リヒャルト・シュトラウス：交響詩『ドン・ファン』Op.20、リヒャルト・ワーグナー：ヴェーゼンドクスの5つの歌（フェリックス・モッティ編曲によるオーケストラ版）～第1曲「天使」第2曲「生まれ」第3曲「温室で」第4曲「悩み」第5曲「夢」（マティルデ・ヴェーゼンドク詩）、ヨハネス・ブラームス：交響曲第1番八短調Op.68[指揮]マリス・ヤンソンス[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ニーナ・シュテンメ（ソプラノ）[収録]2012年8月5日ザルツブルク祝祭大劇場[映像監督]ブライアン・ラージ ■字幕／約1時間36分
ヤルヴィのシューマン『交響曲第4番』	5,13,14,16,17,19,23	今をときめくパーヴォ・ヤルヴィと手兵ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団が地元プレーメンのライブハウス「PIER2（ピール2）」で行った「シューマン交響曲全集」のライブ映像。	[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：交響曲第4番ニ短調Op.120 [指揮]パーヴォ・ヤルヴィ[演奏]ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 [収録]2012年ピール2（プレーメン） [映像監督]クリスティアン・ベルガー ■約35分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ミラノ・スカラ座2012『ヴェルディ：レクイエム』	17,1 8,20 ,21, 22,2 3,26 ,16,	イタリアの文豪アレクサンドロ・マンゾーニを追悼し、彼の一周忌である1874年5月22日、ミラノのサン・マルコ教会でヴェルディ自身の指揮、スカラ座を中心としたオーケストラと合唱団で初演。	[演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：レクイエム [指揮]ダニエル・バレンボイム [演奏]ミラノ・スカラ座管弦楽団及び同合唱団、アニア・ハルテロス（ソプラノ） エリーナ・ガランチャ（メゾ・ソプラノ） ヨナス・カウフマン（テノール） ルネ・パーペ（バリトン） [合唱指揮]ブルーノ・カゾーニ [収録]2012年8月ミラノ・スカラ座 [映像監督]アンディ・ソマー ■字幕／約1時間35分
ポスト・クラシカル「ヴィヴァルディの四季」	13,1 4,15 ,17, 19,2 1,	クラシックの音色とエレクトロニカの革新性を融合させたサウンド「ポスト・クラシカル」を代表するドイツ人作曲家マックス・リヒターと、南アフリカ生まれの英国人ヴァイオリニスト、ダニエル・ホープがタッグを組んだ全く新しいヴィヴァルディ『四季』は、英米独のiTunesクラシカル・チャートでトップになったヒット作。	[演目]アントニオ・ヴィヴァルディ／マックス・リヒター：四季[演奏]ダニエル・ホープ（ヴァイオリン） マックス・リヒター（キーボード） ラルテ・デル・モンド（コンサートマスター：ヴェルナー・エールハルト） [収録]2013年ネプチューン造船所「ホール207」（ロストック）「メクレンブルク＝フォアポンメルン音楽祭」 [映像監督]ヴィクトル・グランディツ ■約48分
ドゥダメル『ベルリオーズ：レクイエム』	3,4, 6,7, 8,9, 12,2 ,	公演2日前に亡くなった指揮者クラウディオ・アバドに捧げられ、ヨーロッパではライブ中継された番組。ノートルダム大聖堂の美しい映像と、2つのオーケストラを用いた大迫力の宗教音楽が圧巻。	[演目]エクトール・ベルリオーズ：死者のための大ミサ曲Op.5（ユルゲン・キンダーマン編集による新ベルリオーズ版） [指揮]グスターボ・ドゥダメル[演奏]フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、シモン・ボリバル交響楽団、アンドリュー・ステイブルズ（テノール） フランス放送合唱団、ノートルダム大聖堂聖歌隊[合唱指揮]セルソ・アントゥネス、リオネル・ソウ[収録]2014年1月22日ノートルダム大聖堂（パリ） [映像監督]イザベル・スラール ■字幕／約1時間39分
アレーナ・ディ・ヴェローナ2014『仮面舞踏会』	25,	18世紀末に実際に起こったスウェーデンの啓蒙君主グスタフ3世暗殺事件を、設定をポストンに移し、君主をポストン総督に代えて、1859年ローマ・アポロ劇場で初演されたヴェルディ中期の傑作オペラ。	[出演]フランチェスコ・メーリ（リカルド／テノール） ヘー・ホイ（アメリア／ソプラノ） ルカ・サルシ（レナート／バリトン） エリザベッタ・フィオリッロ（ウルリカ／メゾ・ソプラノ） セレーナ・ガンベローニ（オスカル／ソプラノ） ウィリアム・コッコ（シルヴァーノ／バス） チェ・スンピル（サムエル／バス） デヤン・ヴァチエコフ（トマーソ／バス） アントニオ・フェルトラッコ（判事／テノール） サヴェリオ・フィオーレ（アメリアの召使／テノール） アレシヤ・ゲルメツィ&エフゲニー・クルツェフ（バレエ） アレーナ・ディ・ヴェローナ舞踊団 [演目]ジュゼッペ・ヴェルディ：3幕のメロドラマ『仮面舞踏会』[台本]アントニオ・ソンマ[原作]ウジェーヌ・スクリーブの悲劇『ギユスターヴ3世、または仮面舞踏会』[演出・装置・衣裳]ピエル・ルイジ・ピッツィ[照明]ヴィンチエンツォ・ラポーニ[振付]レナート・ザネッラ [指揮]アンドレア・バッティストーニ[演奏]アレーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団及び同合唱団[合唱指揮]アルマンド・タツソ [収録]2014年6月20日アレーナ・ディ・ヴェローナ[映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／全3幕：約2時間26分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
チェコ・フィルのドヴォルザーク『交響曲第2番』	20,2 2,23 ,24, 27,2 8,26	第1番の完成直後に作曲された交響曲第2番は、ワーグナーの影響が随所に窺える。ドヴォルザークはこの曲を大切に扱い、その後改訂を施して1888年に初演した。	[演目]アントニン・ドヴォルザーク：交響曲第2番変ロ長調Op.4,B.12 [指揮]イルジー・ビエロフラーヴェク [演奏]チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]2013年11月13日～15日「ルドルフィヌム」内ドヴォルザーク・ホール（プラハ） [映像監督]アダム・レゼク ■約56分
チェコ・フィルのドヴォルザーク『交響曲第5番』	1,2, 3,4, 12	楽団員の99%がチェコ人であるチェコ・フィルと、2012年に20年ぶりに首席指揮者として同楽団に戻ってきたチェコ人指揮者イルジー・ビエロフラーヴェクによる、21世紀新時代の「ドヴォルザーク交響曲全集」。	[演目]アントニン・ドヴォルザーク：交響曲第5番へ長調Op.76,B.54 [指揮]イルジー・ビエロフラーヴェク [演奏]チェコ・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]2012年12月13日「ルドルフィヌム」内ドヴォルザーク・ホール（プラハ） [映像監督]アダム・レゼク ■約47分
ワイマール・バッハ・カンタータ・アカデミー2015「リリングのレクチャー&コンサート」	8,9, 10,1 1,12 ,13, 14,1 9,7	バッハの世界的権威のひとりである合唱指揮者ヘルムート・リリング。80歳を超えた名匠が2014年に新たに組織した若手音楽家育成プログラムが「ワイマール・バッハ・カンタータ・アカデミー」です。	[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：カンタータ第131番『深き淵から主よ、われ汝を呼ばわる』BWV.131 [指揮]ヘルムート・リリング [演奏]ワイマール・バッハ・カンタータ・アカデミー（合唱） バッハ・カンタータ・アカデミー・アンサンブル（管弦楽） ユリア・ゾフィー・ワーグナー（ソプラノ） リディア・ヴィニェス・クルティス（アルト） ニコラス・ファン（テノール） トビアス・ベルント（バリトン） ライドゥン・ターナー（ヴィオラ・ダ・ガンバ） [収録]2015年8月ワイマール [映像監督]ティロ・クラウゼ ■字幕／約1時間12分
ドミトリー・マスレエフの「プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番」	6,7, 8,9, 10,1 1,5	「ピアノという楽器に野生的なダイナミックな表現を加えて、ピアノ音楽の新しい時代を作ったと言ってよいだろう。ドビュッシー以後、ピアノ音楽の分野に得られた、最も注目すべき、そして最も多岐にわたる豊かな成果がそこにある」 現代作曲家の間宮芳生氏がセルゲイ・プロコフィエフ（1891－1953）のピアノ音楽を評したこの言葉に、その特徴と魅力が端的に示されています。	[演目]セルゲイ・プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番へ短調Op.1 [ピアノ]ドミトリー・マスレエフ [収録]2016年11月12日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）「MPHIL360°2016」 [映像監督]コランタン・ルコント ■約8分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ドミトリー・マスレエフの「プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第2番」	6,7,8,9,10,11,5	「ピアノという楽器に野生的なダイナミックな表現を加えて、ピアノ音楽の新しい時代を作ったと言ってよいだろう。ドビュッシー以後、ピアノ音楽の分野に得られた、最も注目すべき、そして最もみどり豊かな成果がそこにある」 現代作曲家の間宮芳生氏がセルゲイ・プロコフィエフ（1891－1953）のピアノ音楽を評したこの言葉に、その特徴と魅力が端的に示されています。	[演目]セルゲイ・プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第2番二短調Op.14[ピアノ]ドミトリー・マスレエフ[収録]2016年11月12日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）「MPHIL360°2016」[映像監督]コランタン・ルコント ■約19分
ドミトリー・マスレエフの「プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第3番」	5,6,7,8,9,10,11	「ピアノという楽器に野生的なダイナミックな表現を加えて、ピアノ音楽の新しい時代を作ったと言ってよいだろう。ドビュッシー以後、ピアノ音楽の分野に得られた、最も注目すべき、そして最もみどり豊かな成果がそこにある」 現代作曲家の間宮芳生氏がセルゲイ・プロコフィエフ（1891－1953）のピアノ音楽を評したこの言葉に、その特徴と魅力が端的に示されています。	[演目]セルゲイ・プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第3番イ短調Op.28『古いソートから』[ピアノ]ドミトリー・マスレエフ[収録]2016年11月12日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）「MPHIL360°2016」[映像監督]コランタン・ルコント ■約9分
ヤンソンス & バイエルン放送響「バレンボイム75歳を祝して」	2,5	バレンボイムがピアニストとしてミュンヘンに降臨、巨匠の『皇帝』を披露。絶好調のヤンソンスとバイエルン放送響は、プロコフィエフで別格の名演を実現。	[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番変ホ長調Op.73『皇帝』、クロード・ドビュッシー：ベルガマスク組曲～第3曲「月の光」、セルゲイ・プロコフィエフ：交響曲第5番変ロ長調Op.100[指揮]マリス・ヤンソンス[演奏]バイエルン放送交響楽団、ダニエル・バレンボイム（ピアノ）[収録]2017年11月10日フィルハーモニー（ガスタイク内、ミュンヘン）[映像監督]エリーザベト・マルツァー ■約1時間37分
ジャルスキーが歌うバロック・オペラの世界	5,	目の覚めるような技巧で聴衆を唸らせるカウンターテナーのスーパースター。イタリア・バロックの知られざる巨匠カルダーラのアリアが現代に甦る！	[演目]アントニオ・カルダーラ：アリア「Contrasto assai pi? degno」（歌劇『テミストークレ』より）／レチタティーヴォ「私はファビオ？」アリア「Troppo? insoffribile」（歌劇『独裁官ルーチョ・バピリオ』より）、ジョヴァンニ・バッティスタ・サンマルティーニ：シンフォニア イ長調第3楽章「プレスト・アッサイ」、アントニオ・カルダーラ：アリア「Non tremar vassallo indegno」（歌劇『テミストークレ』より）／アリア「Tutto fa nocchiero」（歌劇『オーレードのイフィゲニア』より）、アントニオ・ヴィヴァルディ：チェロ協奏曲二短調RV.407～第3楽章「アレグロ」、アントニオ・カルダーラ：アリア「Miserio pargoletto」（歌劇『デモフォーンテ』より）／アリア「Lo seguitai felice」（歌劇『オリンピアード』より）／アリア「Vado, o sposa」（歌劇『エノーネ』より）／アリア「O mi rendi il mio bel ch'io spero」（歌劇『スペインのシビオーネ』より）ニコラ・ポルボラ：アリア「いと高きジョーヴェ」（歌劇『ポリフェーモ』より）、アントニオ・カルダーラ：アリア「Se un core annodi」（歌劇『シーロのアキレス』より）[カウンターテナー]フィリップ・ジャルスキー[演奏]コンチェルト・ケルン、ヴェルナー・マツケ（チェロ）[収録]2010年プリンツレーゲンテン劇場（ミュンヘン）[映像監督]クラウス・ヴィシュマン ■字幕／1時間5分（番組枠）

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ティーレマン&シュターツカペレ・ドレスデン2016「ブラームス、チャイコフスキー&リスト」	9,11,26	ティーレマンとシュターツカペレ・ドレスデンによる2つの名曲を堪能。ブラームス二重協奏曲は最高の名手ふたりが並び、理想的な名演が実現。	[演目]ヨハネス・ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための協奏曲イ短調Op.102、エルヴィン・シュルホフ：ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲より第2楽章『ジンガレスカ』、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：幻想的序曲『ロメオとジュリエット』(1880年第3稿)、フランツ・リスト：交響詩第3番『前奏曲』S.97[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]シュターツカペレ・ドレスデン、リサ・パティアシュヴィリ（ヴァイオリン）ゴージェ・カブソン（チェロ）[収録]2016年11月11日～13日ゼンパー・オーパー（ドレスデン）[映像監督]ペートル・コンラッド ■約1時間27分
BBCプロムス2017「アンドラーシュ・シフの平均律クラヴィーア曲集第1集」	1,4	巨匠アンドラーシュ・シフが構築するバッハの深遠な世界。巨大なロイヤル・アルバート・ホールで唯一人ピアノに向き合う、張り詰めた静寂と孤高の境地。	[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：平均律クラヴィーア曲集第1集BWV.846?869[ピアノ]アンドラーシュ・シフ [収録]2017年9月7日ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン）「PROM73」[映像監督]ヘレン・スコット ■約1時間52分
ティーレマン&シュターツカペレ・ドレスデン「ドヴォルザーク・ブラハ国際音楽祭2016」	5,25	「ドヴォルザーク・ブラハ国際音楽祭」2016年の開幕公演は、同音楽祭初登場のクリスティアン・ティーレマンとシュターツカペレ・ドレスデンによる圧巻のベートーヴェン、レーガー、そしてR・シュトラウス。	[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲二長調Op.61、ヨハン・セバスティアン・バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第1番短調BWV.1002～第3曲「サラバンド」、マックス・レーガー：モーツァルトの主題による変奏曲とフーガOp.132、リヒャルト・シュトラウス：交響詩『テイル・オイレンシュピーゲルの愉快なはずら』Op.28[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]シュターツカペレ・ドレスデン、ニコライ・ズナイダー（ヴァイオリン）[収録]2016年9月5日「ルドルフィヌム」内ドヴォルザーク・ホール（ブラハ）[映像監督]アダム・レツェク ■約1時間44分
BBCプロムス2018「アンドラーシュ・シフの平均律クラヴィーア曲集第2集」	5,11,16	2018年BBCプロムスでの巨匠アンドラーシュ・シフによる『平均律クラヴィーア曲集第2集』。円熟の境地に達したシフが遂に辿り着いたバッハのさらなる深遠な世界。	[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：平均律クラヴィーア曲集第2集BWV.870?893[ピアノ]アンドラーシュ・シフ [収録]2018年8月29日ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン）「PROM63」[映像監督]ヘレン・スコット ■約2時間24分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ティーレマン「アドヴェント・コンサート2017」	18,20,21,22,23,24,	戦争で破壊される前の美しい姿を取り戻したドレスデン・フラウエン教会でのクリスマス・コンサート。歌姫ダムラウとフィンランドの若き歌姫タカラの好演に注目。	[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：管弦楽組曲第3番二長調BWV.1068～序曲、ヨハン・セバスティアン・バッハ：カンタータ第51番『全地よ、神に向かいて歓呼せよ』BWV.51～第1曲「全地よ、神に向かいて歓呼せよ」、フェリックス・メンデルスゾーン＝バルトルディ：クリスマス・カンタータ『高き天より、われは来たれり』MWW A10、カール・マリア・フォン・ウェーバー：ミサ・ソレムニス第1番『魔弾の射手ミサ』J.224 (Op.75a) ～グローリア、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ヴェスペレ（荘厳晩課）八長調K.339～「ラウダー・テ・ドミヌム（主を讃えよ）」、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン：トランペット協奏曲変ホ長調Hob.VIIe:1～第3楽章「アレグロ」／オラトリオ『天地創造』Hob.XX I：2～第30曲「おお主なる神よ」第34曲「全ての声よ、主に向かって歌え！」、賛美歌「高く戸を上げよ」[指揮]クリスティアン・ティーレマン[演奏]シュターツカペレ・ドレスデン及び同合唱団、ディアナ・ダムラウ（ソプラノ）トゥーリ・タカラ（ソプラノ）ベンヤミン・アップル（バリトン）ヘルムート・フックス（トランペット）[合唱指揮]イェルク・ヘンネルク・アンドレーセン[収録]2017年12月2日フラウエン教会（ドレスデン）[映像監督]エリーザベト・マルツァー ■字幕／約59分
ハーディング&バリ管2017『ゲロンティアスの夢』	23,24,27,28,29	英国の作曲家エルガーの傑作オラトリオ。ハーディングとバリ管が描く、死を巡る人間の怖れ、苦悩、魂の救済。ゲロンティアスを歌うアンドリュウ・ステイブルズの絶唱！天使にはマグダレーナ・コジェナー。	[演目]エドワード・エルガー：オラトリオ『ゲロンティアスの夢』Op.38[指揮]ダニエル・ハーディング[演奏]バリ管弦楽団及び同合唱団、同児童合唱団、マグダレーナ・コジェナー（天使／メゾ・ソプラノ）アンドリュウ・ステイブルズ（ゲロンティアス、ゲロンティアスの魂／テノール）ジョン・レライア（司祭、苦悩の天使／バス）[合唱指揮]リオネル・ソー[収録]2017年12月21日&22日フィルハーモニー・ド・パリ[映像監督]フランソワ＝ルネ・マルタン ■字幕／全2部：約1時間42分
佐渡裕「真夏の夜のガラ・コンサート2019」 in グラフェネック	5,24,27,30,	佐渡裕が音楽監督として率いるトーンキエンストラ管弦楽団による夏の恒例のグラフェネック野外コンサート。2019年6月14日収録！	[演目]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『エフゲニー・オネーギン』～ポロネーズ、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー／アレクサンドル・グラズノフ編曲：なつかしい土地の思い出Op.42～第3曲「メロディ」、ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：歌劇『スペードの女王』～エレットキー公爵のアリア「私は貴女を愛しています」、ジョルジュ・ビゼー：歌劇『カルメン』～ハバネラ「恋は野の鳥」、ジュゼッペ・ヴェルディ：歌劇『ドン・カルロ』～ロドリゴの死「あなたを抱くことができるわたしは…わたしには最後の時がきた…私は死ぬ、けれど心は幸福感にあふれて」、ジャコモ・プッチーニ：歌劇『ジャンニ・スキッキ』～ラウレッタのアリア「わたしのお父さん」、ピエトロ・マスカーニ：歌劇『友人フリッツ』～間奏曲、ウンベルト・ジョルダーノ：歌劇『アンドレア・シェニエ』～ジェラルドのアリア「祖国の敵」、ジュール・マスネ：歌劇『エロディアーデ』～サロメのアリア「彼は優しい人」、フランツ・フォン・スッペ：喜歌劇『ウィーンの朝、昼、晩』～序曲、フリッツ・クライスラー／クリストフ・エーレンフェルナー編曲：ウィーン風狂想的幻想曲、フランツ・レハール：喜歌劇『微笑みの国』～スー・ホンのアリア「君は我が心のすべて」、サー・エドワード・エルガー：行進曲『威風堂々』第1番二長調Op.39-1より[指揮]佐渡裕[演奏]トーンキエンストラ管弦楽団、ソニア・ヨンチェヴァ（ソプラノ）リュドヴィク・テジエ（バリトン）エマニュエル・チェクナヴォリアン（ヴァイオリン）[収録]2019年6月14日ヴォルケンツウルム野外劇場（グラフェネック）[映像監督]ハイデリンデ・ハシエク ■1時間25分（番組枠）

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ヤンソンス&ラン・ラン「ジルヴェスター・コンサート2018」	5,	2019年に生涯を閉じた現代の巨匠マリス・ヤンソンスが、その前年の大晦日に手兵バイエルン放送交響楽団とともに開いた、なんとあたたかいガラ・コンサート	<p>[指揮] マリス・ヤンソンス [演奏] バイエルン放送交響楽団、ラン・ラン (ピアノ) [曲目] レナード・バーンスタイン：『キャンディード』序曲 クロード・ドビュッシー：月の光 (レオポルド・ストコフスキー編曲) エドワード・エルガー：付随音楽『子供の魔法の杖』Op.1より～野生の熊 ジャン・シベリウス：悲しきワルツOp.44 アントニン・ドヴォルザーク：スラヴ舞曲集第7番 (第15番) 八長調Op.72-7 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ピアノ協奏曲第21番八長調K.467より～第2楽章アンダンテ?星海：黄河協奏曲 (1939年) より～第2楽章黄河賛歌 フレデリック・ショパン：華麗なる大円舞曲変ホ長調Op.18 (ソリスト・アンコール) 外山雄三：バレエ組曲『幽玄』より～男たちの踊り ピエトロ・マスカーニ：歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』間奏曲 ヨハネス・ブラームス：ハンガリー舞曲集第5番ト短調 (アルバート・パーロウ編曲) ルペルト・チャピ：サルスエラ『人騒がせな娘』前奏曲 ジェルジュ・リグティ：ルーマニア協奏曲より～第4楽章 (アンコール) ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：バレエ音楽『眠りの森の美女』より～パノラマ ヨハン・シュトラウス II：ギャロップ『愛の便り』 [収録] 2018年12月31日、ミュンヘン、ヘラクレスザール (ライブ) [映像監督] エリーザベト・マルツァー ■1時間50分 (番組枠)</p>
ショルティ&シカゴ響『ベートーヴェン：交響曲第1番』	4,6, 7,8, 9,12 ,3	サー・ゲオルグ・ショルティと手兵シカゴ交響楽団が、1978年にロンドンでベートーヴェンを披露。懐かしいスタイルの重厚な交響曲第1番を堪能。	<p>[演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第1番 八長調 Op.21 [指揮] サー・ゲオルグ・ショルティ [演奏] シカゴ交響楽団 [収録] 1978年 ロイヤル・アルバート・ホール (ロンドン) [映像監督] ハンフリー・バートン ■40分 (番組枠)</p>
バーンスタイン&ウィーン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第1番』	18,2 0,21 ,22, 23,2 4,26 ,17,	20世紀の演奏史にさん然と輝くウィーン・フィルとの金字塔! バーンスタインがもっともエネルギーが詰まっていた1970年代を締めくくった、伝説のベートーヴェン・ライブ。	<p>[曲目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第1番八長調Op.21 [指揮] レナード・バーンスタイン [管弦楽] ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [録音ディレクター] ジョン・マクルーア [収録] 1978年11月、ウィーン楽友協会大ホール (ライブ) [映像監督] ハンフリー・バートン ■35分 (番組枠)</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
グリモー「ピアノ・リサイタル『Woodlands and Beyond』」	12,1 3,14 ,15, 16,1 7,18 ,26,	自然との共生をライフワークとして活動するエレヌ・グリモーが、森の映像が映し出される巨大スクリーンの前で演奏する、森と水の音楽。	<p>[ピアノ] エレヌ・グリモー [写真] マット・ヘネック [曲目] ルチアーノ・ベリオ：水のピアノ～6つのアンコール第3曲—アントニオ・バリスタのための ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション1 武満 徹：雨の樹素描Ⅱ～オリヴィエ・メシアンの追憶に ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション2 ガブリエル・フォーレ：舟歌第5番嬰へ短調Op.66 ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション3 モーリス・ラヴェル：水の戯れ ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション4 イサーク・アルベニス：アルメリア～『イペリア第2巻』第2曲 ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション5 フランツ・リスト：エステ荘の噴水～『巡礼の年第3年』第4曲 ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション6 レオシュ・ヤナーチェク：アンダンテ～『霧の中で』第1曲 ニティン・ソーニー：ウォーター—トランジション7 クロード・ドビュッシー：沈める寺～『前奏曲集第1巻』第10曲 [収録] 2017年6月26日、ハンブルク、エルプフィルハーモニー [映像監督] フランソワ＝ルネ・マルタン ■65分（番組枠）</p>
BBCプロムス2018「ヤルヴィ&ブニアティシヴィリ」	19,2 0,21 ,22, 23,2 4,25	2018年プロムスにエストニア・フェスティバル管が初登場。パーヴォ・ヤルヴィの熱い指揮のもと、北欧の名作を聴かせる。ブニアティシヴィリのグリーグの熱演も。	<p>[演目] アルヴォ・ベルト：交響曲第3番 エドヴァルト・グリーグ：ピアノ協奏曲イ短調Op.16 [ソリストアンコール]クロード・ドビュッシー：月の光 ジャン・シベリウス：交響曲第5番変ホ長調Op.82 [アンコール]レボ・スメラ：スプリング・フライ、ヒューゴ・アルヴェーン：「羊飼いの娘の踊り」</p> <p>[指揮] パーヴォ・ヤルヴィ [演奏] エストニア・フェスティバル管弦楽団、カティア・ブニアティシヴィリ（ピアノ）</p> <p>[収録] 2018年8月13日 ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン） [映像監督] ジョナサン・ハズウェル ■2時間（番組枠）</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
レオ・ヌッチ『ミラノ・スカラ座リサイタル』	2,3, 4,6, 7,8,	ヌッチのミラノ・スカラ座デビュー30周年記念コンサート。スカラ座でソロ・リサイタルを行えるアーティストは限られ、彼がミラノ市民にとっていかに特別な存在であるかがわかる映像。	[演目]ジョアキーノ・ロッシーニ：歌劇『セビリアの理髪師』～フィガロのアリア「私は町のなんでも屋」、ガエタノ・ドニゼッティ：歌劇『ランメルモールのルチア』～エンリーコのアリア「酷で不吉な奇立ちが」／歌劇『愛の妙薬』～ベルコレのアリア「昔パリスがしたように」、ジュゼッペ・ヴェルディ：歌劇『二人のフォスカリ』～フランチェスコ・フォスカリのアリア「ああ年老いた心よ」／歌劇『マクベス』～マクベスのアリア「裏切り者め…憐れみも誉れも愛も」／歌劇『仮面舞踏会』～レナートのアリア「お前こそ心を汚す者」／歌劇『ドン・カルロ』～ロドリゴの死「わが生涯の最高の日」、ジャコモ・プッチーニ：歌劇『ジャンニ・スキッキ』～ジャンニ・スキッキのアリア「声は同じだった？…勝利だ」、ジュゼッペ・ヴェルディ：歌劇『オテロ』～イアーゴの信条「無慈悲な神の命ずるままに」／歌劇『イル・トロヴァトーレ』～ルーナ伯爵のアリア「君が微笑み」／歌劇『リゴレット』～リゴレットのアリア「悪魔め、鬼め」／歌劇『運命の力』～ドン・カルロのアリア「この中に私の運命がある…やはり助かった」／歌劇『椿姫』～ジェルモンのアリア「プロヴァンスの海と陸」、ウンベルト・ジョルダーノ：歌劇『アンドレア・シェニエ』～ジェラルムのアリア「祖国の敵」、フランチェスコ・パオロ・トスティ：君なんかもう愛していない、チェザーレ・アンドレア・ピクシオ：マンマ [バリトン]レオ・ヌッチ [ピアノ]ジェイムズ・ヴォーン [収録]2007年1月15日ミラノ・スカラ座 [映像監督]ティツィアーノ・マンチーニ ■字幕／約1時間33分
マイスキのバッハ『無伴奏チェロ組曲第1番』	2,3, 8,28 ,30	世界中で圧倒的な人気を誇るチェリスト、ミッシェ・マイスキー38歳の、彼にとっては唯一のバッハ『無伴奏チェロ組曲』映像がHDで蘇った。旧ソ連時代のラトビア・リガで生まれ、20代で強制収容所を経験するという苦難の人生を乗り越え、チェロと共に歩んできたマイスキー。	[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番ト長調BWV.1007[チェロ]ミッシェ・マイスキー[収録]1986年10月～11月ヴィラ・カルドーニョ・ノルデラ（イタリア）[映像監督]ハンフリー・バートン&ホラント・H・ホールフェルト ■約21分
ベーム&ポリーニ『モーツァルト：ピアノ協奏曲第19番』	16,1 7,20 ,21,	1784年にウィーンで活躍していたモーツァルトが自作自演する予約演奏会のために書いたピアノ協奏曲第19番。	[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ピアノ協奏曲第19番ヘ長調K.459[指揮]カール・ベーム[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、マウリツィオ・ポリーニ（ピアノ）[収録]1976年4月ムジークフェラインザール（ウィーン） [映像監督]フーゴー・ケヒ ■約32分
カラヤン&ベルリン・フィル『ベートーヴェン：交響曲第1番』	11,1 3,14 ,15, 16,1 7,19 ,10,		[演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第1番ハ長調Op.21 [指揮]ヘルベルト・フォン・カラヤン [演奏]ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]1971年UFAフィルム・スタジオ（ベルリン） [映像監督]アルネ・アルンボム ■約25分
ショルティ&シカゴ響『未完成』	1,2, 3	20世紀を代表するハンガリーの指揮者ゲオルグ・ショルティと手兵シカゴ響の黄金コンビによる、シュベルトの最も有名な『未完成』の定番映像。	[演目]フランツ・ペーター・シュベルト：交響曲第7番（旧8番）D.759『未完成』[指揮]サー・ゲオルグ・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団[収録]1979年オーケストラ・ホール（シカゴ）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約33分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ブルックナー：交響曲第6番イ長調	10,1 8,26	1979年シカゴ響の本拠地オーケストラ・ホールで収録されたブルックナーの交響曲第6番。ショルティとのコンビによる黄金時代の演奏は、壮大で推進力にあふれ、しかも繊細で美しい！	[演目]アントン・ブルックナー：交響曲第6番イ長調WAB.106[指揮]サー・ゲオルグ・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団[収録]1979年オーケストラ・ホール（シカゴ）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約1時間5分
リヒターのバッハ『ブランデンブルク協奏曲第3番』	6,7, 8,10 ,11, 17,1 9,20		[演目]ヨハン・セバスティアン・バッハ：フアンテンフルク協奏曲第3番ト長調BWV.1048[指揮&チェンバロ]カール・リヒター[演奏]ミュンヘン・バッハ管弦楽団[収録]1970年4月1日～10日シュライスハイム城（ミュンヘン） [映像監督]アルネ・アルンボム ■約14分
ボッケリーニ：チェロ協奏曲変ロ長調	5,	モーツァルトと同時代の作曲家でチェリストとしても高名であったボッケリーニの数あるチェロ協奏曲の中で最も有名なもの。フランスのチェリスト、グザヴィエ・フィリップの端正で艶やかな美音に注目。	[演目]ルイジ・ボッケリーニ：チェロ協奏曲第9番変ロ長調G.482[指揮]フィリップ・グリーンバーク[演奏]バイエルン・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、グザヴィエ・フィリップ（チェロ）[収録]2000年モーツァルテウム（ザルツブルク）「モーツァルト週間」[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約24分
ブルックナー：交響曲第7番	3,7, 13,1 9,	ショルティ&シカゴ響の黄金時代を収録した1978年BBCプロムスでのブルックナー『交響曲第7番』。会場はロイヤル・アルバート・ホール。シカゴ響最強の金管セクションは見どころ。	[演目]アントン・ブルックナー：交響曲第7番ホ長調WAB.107（原典版）[指揮]サー・ゲオルグ・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団[収録]1978年9月5日ロイヤル・アルバート・ホール（ロンドン）[映像監督]ロドニー・グリーンバーク ■約1時間15分
ツィメルマンのショパン『舟歌』	13,1 7,20 ,21, 22	「舟歌（バルカロール）」はヴェネツィアのゴンドラ漕ぎの歌に由来するといわれ、8分の6拍子の軽快な動きを伴うが、どこか感傷やもの悲しさを含んでいるのが特徴。ショパン晩年期の「舟歌」は物語性と抒情性が見事に融合し、数多ある「舟歌」の中でも最高傑作との呼び声が高い。	[演目]フレデリック・フランソワ・ショパン：舟歌嬰へ長調Op.60 [ピアノ]クリスティアン・ツィメルマン [収録]1987年2月ローゼンヒューゲル（ウィーン）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約11分
ポゴレリチのショパン『ポロネーズ第4番』	1,	一躍脚光を浴びた1980年ショパン・コンクールから7年後に収録されたポゴレリチ20代後半の瑞々しいショパンのポロネーズ第4番。強靱なタッチと確かなテクニックを捉えたカメラワークに注目。	[演目]フレデリック・フランソワ・ショパン：ポロネーズ第4番ハ短調Op.40-2[ピアノ]イーヴォ・ポゴレリチ[収録]1987年4月～5月レアレ・ディ・ラッコネージ城（トリノ近郊）[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約10分
ポゴレリチのショパン『前奏曲第25番』	11,		[演目]フレデリック・フランソワ・ショパン：前奏曲第25番嬰ハ短調Op.45[ピアノ]イーヴォ・ポゴレリチ[収録]1987年4月～5月レアレ・ディ・ラッコネージ城（トリノ近郊）[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約9分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタイン&マイスキー 『シューマン：チェロ協奏曲』	2,3, 6,7, 25,2 7,	世界的チェリスト、マイスキーの美しい音色のみならず、フィンガリングやボウイングなどのチェロの奏法も臨場感たっぷりに楽しめるライブ映像。	[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：チェロ協奏曲イ短調Op.129[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ミツシャ・マイスキー（チェロ）[収録]1985年ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約28分 [チェロ]ミツシャ・マイスキー [指揮]レナード・バーンスタイン [演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [収録]1985年ムジークフェラインザール（ウィーン） [映像監督]ハンフリー・バートン ■約28分
バーンスタイン&ウィーン・フィル 『シューマン：ピアノ協奏曲』	6,10 ,18	「ウルトラセブン」最終回で印象を残した名曲。バーンスタインとウィーン・フィルのシューマン全集より。ピアノはシュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭創設者ユストゥス・フランツ。	[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：ピアノ協奏曲イ短調Op.54[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ユストゥス・フランツ（ピアノ）[収録]1984年ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約36分
ショルティのメンデルスゾーン『イタリア』	12,2 2,27 ,28, 29,3 0,	メンデルスゾーンの交響曲の中で最も親しまれている第4番『イタリア』。ショルティの快活な指揮とシカゴ響のスーパープレイがさまざまなアングルのカメラワークで楽しめる番組。	[演目]フェリックス・メンデルスゾーン=バルトルディ：交響曲第4番イ長調Op.90『イタリア』[指揮]ゲオルグ・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団[収録]1976年オーケストラ・ホール（シカゴ）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約31分
ショルティ&チョン・キョンファ『メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲』	5,13 ,14, 15,2 0	1979年シカゴ響の本拠地オーケストラ・ホールで収録された、数あるヴァイオリン協奏曲の中でも最も有名なメンデルスゾーンの定番映像。	[演目]フェリックス・メンデルスゾーン=バルトルディ：ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64[指揮]サー・ゲオルグ・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団、チョン・キョンファ（ヴァイオリン）[収録]1979年10月オーケストラ・ホール（シカゴ）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約32分
ワーグナー：歌劇『さまよえるオランダ人』序曲	1,2, 3,6,	単独で演奏されることも多い、ワーグナーの中では一番短い歌劇の有名な序曲。20代後半のワーグナーの若々しさが、ショルティとシカゴ響の颯爽とした演奏で見ることができる。	[演目]リヒャルト・ワーグナー：歌劇『さまよえるオランダ人』～序曲[指揮]サー・ゲオルグ・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団[収録]1976年オーケストラ・ホール（シカゴ）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約14分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ワーグナー：歌劇『タンホイザー』序曲	16,2 1,22 ,23, 24,2 7,	ワーグナー入門としても格好の番組。ショルティ&シカゴ響黄金時代の圧倒的な金管セクションと、早大でダイナミック、美しくらびやかなサウンドが圧巻。	[演目]リヒャルト・ワーグナー：歌劇『タンホイザー』序曲[指揮]サー・ケオルク・ショルティ[演奏]シカゴ交響楽団[収録]1979年オーケストラ・ホール（シカゴ）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約17分
ラフマニノフ：交響曲第2番ホ短調	29,3 0		[演目]セルгей・ラフマニノフ：交響曲第2番ホ短調Op.27[指揮]ユージン・オーマンディ[演奏]フィラデルフィア管弦楽団[収録]1979年アカデミー・オブ・ミュージック（フィラデルフィア）[映像監督]カーク・ブラウニング ■約51分
リヒターの『マイア受難曲』	10,1 1,13 ,14, 15,9 ,	巨大な十字架が天井から吊り下げられた白いスタジオの鮮烈な印象。1981年に54歳の若さで急逝したリヒターの歴史的映像。往年の名歌手による感動的な歌唱も必見。	
バーンスタイン&ウィーン・フィル『ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための協奏曲』	1,2, 3	バーンスタインがウィーン・フィルと行ったブラームス全集より。1982年当時、世界的に注目を集め始めた頃の若きギドン・クレーメルとミッシャ・マイルスキーの二重協奏曲。	[演目]ヨハネス・ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための協奏曲イ短調Op.102[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ギドン・クレーメル（ヴァイオリン）ミッシャ・マイルスキー（チェロ）[収録]1982年9月1日～6日ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約40分
バーンスタインのシューマン『春』	17,2 0,21 ,22, 23	シューマンが創作意欲に溢れていた当時の心境やクララ・ヴィークと結婚した頃の幸福な生活を示すかのように、春の陽気と生命力が全開した若々しいエネルギーに満ちた名曲。	[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：交響曲第1番変ロ長調Op.38『春』[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]1984年10月5日～22日ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約38分
バーンスタインのシューマン『交響曲第2番』	25,2 7,28 ,29, 30	シューマン交響曲の中で最も美しい楽章と称され、バーンスタイン自身「ピアノッシモの一大悲劇」と呼んだ第3楽章など、見どころ満載。	[演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：交響曲第2番ハ長調Op.61[指揮]レナード・バーンスタイン[演奏]ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団[収録]1985年10月23日～11月6日ムジークフェラインザール（ウィーン）[映像監督]ハンフリー・バートン ■約48分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
スクリヤービン：12の練習曲作品8より第2番／2つの詩曲作品32	6,20 ,21, 22,2 3,24 ,	1980年のショパン・コンクール事件（ポゴレリチの本選落選に激怒したアルゲリッチが「彼こそ天才」という言葉を残して審査員を辞任）で一躍脚光を浴びたイーヴォ・ポゴレリチ。この番組は、それから7年後の1987年にイタリア・パドヴァで収録された、ポゴレリチ28歳のスクリヤービンです。	[演目]アレクサンドル・スクリヤービン：12の練習曲Op.8～第2番嬰へ短調／2つの詩曲Op.32（第1番嬰へ長調、第2番二長調）[ピアノ]イーヴォ・ポゴレリチ[収録]1987年8月パドヴァ（イタリア）[映像監督]ホラント・H・ホールフェルト ■約10分
ドキュメンタリー&エンターテイメント			
イグデスマン&ジョーの『オーケストラガイド』	1,2, 3,4, 5,6, 7,12 ,	先例のない音楽漫才コンビ「イグデスマン&ジョー」。二人が名門トーンハレ管弦楽団とともに「世界の歴史」と「楽器の歴史」を一挙で紹介する、爆笑のステージ。	[発案・台本・作曲・出演] イグデスマン&ジョー：アレクセイ・イグデスマン（ヴァイオリニスト・俳優）&ヒョンギ・ジョー（ピアニスト・俳優） [演奏] ジョシュア・ワイラー・スタイン（指揮）チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団 [振付・演出] フェルディナンド・チェファロ [制作] 2018年チューリッヒ・トーンハレ（スイス） [映像監督] フリードリヒ・ガッツ ■字幕／1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第18話「凱旋」	16,1 7,18 ,20, 21,2 2,26 ,15,	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第18話は過去の出演から羽ばたいた若手演奏家3人が凱旋。アンドレ・ワッツの快演は見どころ。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、ステイーヴン・ケイツ（チェロ） ヴェロニカ・タイラー（ソプラノ） アンドレ・ワッツ（ピアノ） [演目]ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー：ロココ風の主題による変奏曲イ長調Op.33、ジャコモ・プッチーニ：歌劇『ラ・ボエーム』～ミミのアリア「私の名はミミ」、ジョージ・ガーシュウィン：歌劇『ポーギーとベス』～セリーナのアリア「うちの人は逝ってしまった」、ヨハネス・ブラームス：ピアノ協奏曲第2番変ロ長調Op.83～第1楽章[収録]1967年2月25日フィルハーモニック・ホール(リンカーン・センター、ニューヨーク) [オリジナル放映日]1967年4月19日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約56分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第22話「バッハ さまざまな編曲」	30,2 9	バッハの編曲がテーマの『ヤング・ピープルズ・コンサート』に、巨匠ストコフスキーが登場！ さすがの名演を聴かせる。フォス作品の実演の映像も貴重。	[出演] レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック、レオポルド・ストコフスキー（ゲスト指揮者） マイケル・コーン（オルガン） デイヴィッド・ナディアン（ヴァイオリン） ジュリアス・ペーカー（フルート） ニューヨーク・ロックンロール・アンサンブル [演目] ヨハン・セバスチャン・バッハ：小フーガ ト短調BWV578（オルガン原曲、ストコフスキー編曲のオーケストラ版、モーグ・シンセサイザー版）／無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番 ホ長調BWV1006よりプレリュード、ルーカス・フォス：フォリオン（抜粋版）、ヨハン・セバスチャン・バッハ：ブランデンブルク協奏曲第5番 二長調BWV1050 第1楽章（原曲、ロックバンド版） [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1969年4月27日[映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約54分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第17話「アメリカ音楽のパイオニア、チャールズ・アイヴズ」	9,10 ,11, 13,1 4,15 ,19, 8,	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第17話はユニークな作品を残したアメリカの作曲家アイヴズの唯一無二の音楽の魅力に迫る。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック、サイモン・エステス（バス・バリトン） [演目]チャールズ・アイヴズ：「はしご車のゴング、あるいはメイン・ストリートを行く消防士のパレード」/ホリデー・シンフォニー『ニューイングランドの祝祭日』～第1曲「ワシントン誕生日」/行進曲『サーカス・バンド』/「偉大なる庶民リンカーン、偉大な解放者」/「答えのない質問」[収録]1967年1月21日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1967年2月23日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕/1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第19話「永遠のベートーヴェン」	16,1 7,18 ,20, 21,2 2,26 ,15,	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第19話は、放送11年目に入りカラー収録になって、改めてベートーヴェンの偉大さを紹介。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック、ジョゼフ・カリクシュタイン（ピアノ） ポール・カポロンゴ（指揮） [演目] ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第5番八短調Op.67『運命』～第1楽章/ピアノ協奏曲第4番ト長調Op.58～第2楽章&第3楽章/『レオノーレ』序曲第3番Op.72b [収録] 1968年1月6日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1968年1月28日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕/1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第12話「ヒンデミットの非凡な才能」	5,	新たに発掘されたバーンスタインの伝説のTVシリーズのシーズン2。ドイツの作曲家ヒンデミットの音楽の仕掛けとその魅力を鮮やかに解き明かす。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック [演目]パウル・ヒンデミット：5つの管楽器のための小室内音楽Op.24-2～第1楽章/交響曲『画家マティス』（第1楽章「天使の合奏」第2楽章「埋葬」第3楽章「聖アントニウスの誘惑」） [収録]1964年1月25日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1964年2月23日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕/約55分
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第13話「音楽の民族性と非民族性」	5,	新たに発掘されたバーンスタインの伝説のTVシリーズのシーズン2。音楽における国民性・民族性をテーマに、民族性豊かな音楽と、そこから離れた音楽を説明。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック [演目]レインゴリト・グリエール：バレエ組曲『赤いけしの花』Op.70a～第6曲「ロシア水兵の踊り」、アントン・ウェーベルン：管弦楽のための5つの小品Op.10～第1楽章、チャールズ・アイヴズ：交響曲『ニューイングランドの祝日』（ホリデー・シンフォニー）～第3楽章「独立記念日（The Fourth of July）」、マヌエル・デ・ファリャ：バレエ音楽『三角帽子』～第1組曲、ベドルジハ・スメタナ：連作交響詩『わが祖国』～第2曲「モルダウ」 [収録]1964年11月21日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1964年11月30日 [映像監督]ロジャー・イングランドー ■字幕/約55分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第14話「ヤング・アーティストVol.6」	2,3,4,6,7,8,12,1	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第14話は若いアーティストの名技を観ながらバーンスタインの素晴らしいサポートにも注目。	<p>[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、パトリア・マイケリアン（ピアノ） ジェイムズ・バズウェル（ヴァイオリン）</p> <p>[演目]ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番二短調K.466～第1楽章、フェリックス・メンデルスゾーン＝バルトルディ：ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64～第1楽章、モーリス・ラヴェル：管弦楽組曲『マメール・ロワ』（第1曲「眠れる森の美女のパヴァーヌ」第2曲「おやゆび小僧（一寸法師）」第3曲「パゴダの女王レドネット」第4曲「美女と野獣の対話」第5曲「妖精の園」）</p> <p>[収録]1965年1月23日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク）</p> <p>[オリジナル放映日]1965年1月28日[映像監督]ロジャー・イングラダー</p> <p>■字幕／約55分</p>
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第15話「ヤング・アーティストVol.7」	2,3,4,6,7,8,12,1	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第15話は若手演奏家による『展覧会の絵』のピアノ独奏版とオーケストラ編曲版の見比べ対決。	<p>[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、ジェイムズ・デブリースト、ジャック・ウトマン、エド・デ・ワールト（指揮） ポール・シェンフィールド、ステファニー・セバステイアン、デイビット・オーエイ、オラシオ・グティエレス（ピアノ） [演目]モデスト・ムソルグスキー：組曲『展覧会の絵』（オリジナルのピアノ独奏版とモーリス・ラヴェルによるオーケストラ編曲版） ～「プロムナード」「グノーム」「プロムナード」「古城」「プロムナード」「テュイルリーの庭」「プロムナード」「卵の殻をつけた雛の踊り」「キエフの大門」[収録]1966年2月19日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1966年2月22日[映像監督]ロジャー・イングラダー</p> <p>■字幕／約56分</p>
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第16話「ヤング・アーティストVol.8」	9,10,11,13,14,15,19,8,	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第16話はバーンスタインお薦めの若手が続々登場。モノクロからカラーへの映像の変化も見もの。	<p>[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、ファン・パブロ・イスキエルド、シルヴィア・カドゥフ（指揮） エルマー・オリヴェイラ（ヴァイオリン） ドナルド・グリーン（チェロ） マーク・サルキン（オーボエ） フレッド・オルストン（ファゴット） ステファン・ドミンコ（アコーディオン） ジョージ・リード（バス） ヤン・ウク・キム（ヴァイオリン） [演目]フランツ・ヨーゼフ・ハイドン：協奏交響曲変ロ長調Hob.I-105,Op.84、フレデリック・フランソワ・ショパン：ピアノ協奏曲第2番ヘ短調Op.21～第3楽章（アコーディオン版）、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト：歌劇『魔笛』～ザラストロのアリア「この神聖な殿堂の中では」、カミーユ・サン＝サーンス：ヴァイオリン協奏曲第3番短調Op.61～第1楽章[収録]1966年12月17日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1967年1月27日[映像監督]ロジャー・イングラダー</p> <p>■字幕／1時間（番組枠）</p>

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第20話「ヤング・アーティストVol.9」	23,2 4,25 ,27, 28,2 9,22	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第20話は、ヒンデミット作品とその原曲を中心に、若手音楽家の紹介と作品解説を両立。	[出演]レナード・バーンスタイン（お話・指揮） ニューヨーク・フィルハーモニック、ローレンス・フォスター（チェロ） マーティン&スティーヴン・ヴァン（ピアノデュオ） アロイス・シュプリングァー（指揮） ヘレン・クアック（指揮） [演目]カミーユ・サン＝サーンス：チェロ協奏曲第1番イ短調Op.33、カール・マリア・フォン・ウェーバー：8つの小品Op.60～第4曲「アレグロ」イ短調、パウル・ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容～第1楽章「アレグロ」、カール・マリア・フォン・ウェーバー：『トゥーランドット』行進曲、パウル・ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容～第2楽章「トゥーランドット」、カール・マリア・フォン・ウェーバー：8の小品Op.60～第7曲「行進曲」ト短調、パウル・ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容～第4楽章「行進曲」[収録]1968年1月27日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1968年3月31日 [映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第21話「幻想的変奏曲」	23,2 4,25 ,27, 28,2 9,22	新たに発掘されたバーンスタイン伝説のTVシリーズのシーズン2。第21話は、変奏曲形式であるR.シュトラウスの『ドン・キホーテ』の内容と音楽の魅力に迫る。	[出演] レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック、ローン・マンロー（チェロ） ウィリアム・リンサー（ヴィオラ） デヴィッド・ナディエン（ヴァイオリン） [演目]リヒャルト・シュトラウス：交響詩『ドン・キホーテ』～大管弦楽のための騎士的な性格の主題による幻想的変奏曲Op.35 [収録]1968年10月26日フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1968年12月25日 [映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／1時間（番組枠）
バーンスタインの『ヤング・ピープルズ・コンサート』シーズン2 第23話「オーケストラの解剖学」	30,2 9	この『ヤング・ピープルズ・コンサート』では、バーンスタインがスコアに“X線”を当てて、「ローマの松」のオーケストラサウンドの秘密を解剖。見ごたえ抜群です。	[出演] レナード・バーンスタイン（お話・指揮・ピアノ） ニューヨーク・フィルハーモニック [演目] オットリーノ・レスピーギ：交響詩『ローマの松』 [収録]フィルハーモニック・ホール、リンカーン・センター（ニューヨーク） [オリジナル放映日]1970年5月24日 [映像監督]ロジャー・イングラダー ■字幕／約53分
トリフォノフ&プレトニョフ「ショパンの新しい世界」	24,2 7,28 ,29,	鬼才トリフォノフが作品と向き合い、音にするまでの信条やこだわりを迫る、録音現場の密着ドキュメンタリー。プレトニョフ編曲による「新しいショパン」の制作秘話！	[出演]ダニール・トリフォノフ（ピアノ） ミハイル・プレトニョフ（指揮） マーラー・チェンバー・オーケストラ（演奏） [監督]クリスティアン・ベルガー [制作]2017年 ■字幕／約54分
ドキュメンタリー「ブニアティシヴィリとメータ～ジョージアでの48時間」	14,1 5,16 ,17, 18,1 9,20 ,21,	才色兼備の人気ピアニスト、カティア・ブニアティシヴィリの母国でのリハールと演奏会に密着。巨匠ズービン・メータのサポートで、シューマンの傑作に挑む。	[出演]カティア・ブニアティシヴィリ（ピアニスト） ズービン・メータ（指揮者） イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団 [演目]ロベルト・アレクサンダー・シューマン：ピアノ協奏曲イ短調Op.54、クロード・ドビュッシー：ベルガマスク組曲～第3曲「月の光」 [監督]ホルガー・プロイセ [制作]2018年 ■字幕／約54分

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等
ポートレート「振付家マーティン・シュレプファー」	1,2,3,4,5,6,12	次期ウィーン国立バレエ芸術監督マーティン・シュレプファーの振付作品とダンサーとしての姿、挑戦を続ける彼の創造の源とその思想、日常生活までも紹介。	[出演]マーティン・シュレプファー（振付家・ダンサー） ハンス・ファン・マーネン（振付家） ゲルト・ヴァイゲルト（写真家） クリストフ・マイヤー（ドイツ・ライン歌劇場総支配人） アンネ・ド・パソ（劇作家） アドリアーナ・ヘルツキー（作曲家） 他[主な演目]ハンス・ファン・マーネン振付『日常』、マーティン・シュレプファー振付『深宇宙』『森、湖』『ブラムス - 交響曲第2番』『五重奏曲「ます」』[監督]アネッテ・フォン・ヴァンゲンハイム[制作]2015年 ■字幕／1時間35分（番組枠）
熱弁！ ムーティが語るトスカニーニ	29,30,28	トスカニーニ生誕150年記念。ムーティとトスカニーニ研究者ハーヴェイ・サックスがトスカニーニについて語る討論会。トスカニーニのアーカイブ映像は必見。	[出演]リッカルド・ムーティ（指揮者） ハーヴェイ・サックス（音楽史家／『トスカニーニ自伝』著者） [アーカイブ映像]ジュゼッペ・ヴェルディ：歌劇『アイダ』～「聖なるナイルの岸に急げ」、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第9番二短調Op.125『合唱』～第4楽章より、クロード・ドビュッシー：夜想曲～第1曲「雲」、リチャード・ワーグナー：楽劇『トリスタンとイゾルデ』第1幕前奏曲[収録]2017年2月4日パルマ王立歌劇場[監督]ガブリエレ・カゾッラ ■字幕／約1時間40分
ポートレート『エディタ・グルベローヴァ』	22,23,24,25,26,27,28,21,	圧倒的な美声と驚異的な歌唱技巧を併せ持ったソプラノの女王エディタ・グルベローヴァのドキュメンタリー。故郷ブラティスラヴァの少女時代から教会の合唱隊、ブラティスラヴァの音楽院入学やウィーンに出たときの苦労話まで、これまで見る事がなかった貴重な映像が満載。	[出演]エディタ・グルベローヴァ（ソプラノ歌手） プリギッテ・ファスベンダー（元メゾ・ソプラノ歌手／チロル州立歌劇場総裁） ヨアヒム・カイザー（音楽評論家） ニコラス・アーノンクール（指揮者） メラニー・クシュニローヴァ（友人） ゲルミナル・ヒルベルト（エージェント） ベーター・ヴェヒター（ウィーン国立歌劇場管弦楽団ヴァイオリニスト） ヴォルフガング・シュルツ（ウィーン国立歌劇場フルーティスト） エリーナ・ガランチャ（メゾ・ソプラノ歌手） サー・ペーター・ヨナス（バイエルン州立歌劇場総裁） [監督]クラウス・ヴィッシュマン&ステファン・パンネン [制作]2008年 ■字幕／約1時間22分
ティーレマンと語るベートーヴェン『交響曲第1番』	6,7,8,9,3	音楽評論家ヨアヒム・カイザー（1928～2017）が、指揮者クリスティアン・ティーレマンと共に、ベートーヴェン『交響曲第1番』の音楽的特徴とティーレマンの解釈を討論する。	[出演]ヨアヒム・カイザー（音楽評論家） クリスティアン・ティーレマン（指揮者） [演目]ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲第1番八長調Op.21[監督]クリストフ・エンゲル[制作]2010年 ■字幕／約53分
アルフレート・ブレンデルの音楽講座 第1回「クラシック音楽は真面目でなければならないのか？」	10,13,14,15,16	2008年に惜しまれつつ演奏活動を引退した20世紀を代表するピアニスト、アルフレート・ブレンデル。これは2010年にザルツブルクで3日間にわたって行われ、大好評を博したブレンデルのレクチャー第1回。著書も多く楽譜の編纂にも積極的に関わるなど、演奏から教育へ活動の場を移してなお世界中で活躍する彼の健在ぶりがいかに発揮されている。	[出演]アルフレート・ブレンデル[監督]マーク・カイデル[収録]2010年9月25日日ザルツブルク ■字幕／約1時間16分

CAD1803

CE1803

CE1813

CNA1807

番組名	放送日	概要	曲目、出演者等	
アルフレート・ブレンデルの音楽講座 第3回「音楽における解釈の光と影」	24,27,28,29,30	2008年に惜しまれつつ演奏活動を引退した20世紀を代表するピアニスト、アルフレート・ブレンデル。これは2010年にザルツブルクで3日間にわたって行われ、大好評を博したブレンデルのレクチャー第3回。著書も多く楽譜の編纂にも積極的に関わるなど、演奏から教育へ活動の場を移してなお世界中で活躍する彼の健在ぶりがいかに発揮されている。	[出演]アルフレート・ブレンデル [監督]マーク・カイデル [収録]2010年9月27日ザルツブルク ■字幕／約1時間20分	CNT1801
アルフレート・ブレンデルの音楽講座 第2回「ベートーヴェンのピアノ・ソナタにおける音楽的な性格の例証」	17,20,21,22,23	2008年に惜しまれつつ演奏活動を引退した20世紀を代表するピアニスト、アルフレート・ブレンデル。これは2010年にザルツブルクで3日間にわたって行われ、大好評を博したブレンデルのレクチャー第2回。著書も多く楽譜の編纂にも積極的に関わるなど、演奏から教育へ活動の場を移してなお世界中で活躍する彼の健在ぶりがいかに発揮されている。	[出演]アルフレート・ブレンデル [監督]マーク・カイデル [収録]2010年9月26日ザルツブルク ■字幕／約1時間14分	CU0922
TVエッセイ「シューマンの交響曲」	1,2	リンデマンの文学的エッセイとウィーン・フィルの実演映像がオーバーラップする構成は見応え十分。シューマンの4曲の交響曲が実は音楽史的に偉大であることがわかる内容。	[監督&台本]クラウス・リンデマン[朗読]ゲオルク・コスティア[制作]1987年 ■字幕／約1時間1分	CU1026